

作切傷甲

くり恵から笑顔が消え、
そして戻った理由

十年後

「……」



「!!」

「なつかしいなア
俺の性奴隷にする
つて言つたのに
直後に引つ越し
やがつてよお」
「ずつと会いたいと
思つてたぜえ……」



「おい……
お前 くり恵
じゃねえか？」

「やっぱり
そうだ!
くり恵だ！」



「忘れちまつたか?
まあ仕方ねえか
俺もだいたいぶ
落ちぶれた方
からなあ……」

「……？」

「ほり お前を
レイプした……」



「あの時の
男だよ！」



トスッ

「そうそう
コレだよコレ！」

「このデッケエ
パイオツを
揉みたくて
ちまりなかつた
んだよ！」

「十年の間に
勝手に人妻に
なりやがって……」
「夫はあの事を
知ってんのか？」

もみ

もみ もみ

「言っ
てねえ
んだろ？」

「言えるワケ
ねえよなア
処女をこんな奴に
捧げちなんて……」

「バラサれちくなくけりや
判つてるよな……？」

もみ

もみ

「旦那の事を
愛してるんだろ？
嫌われちく
ねえよなア……？」

もみ

「十年経っても相変わらず
良い身体してるじゃねえか」

「ホラ とつとつと
尻を突き出しやがれ
あの日の続きを
するんだよ！」

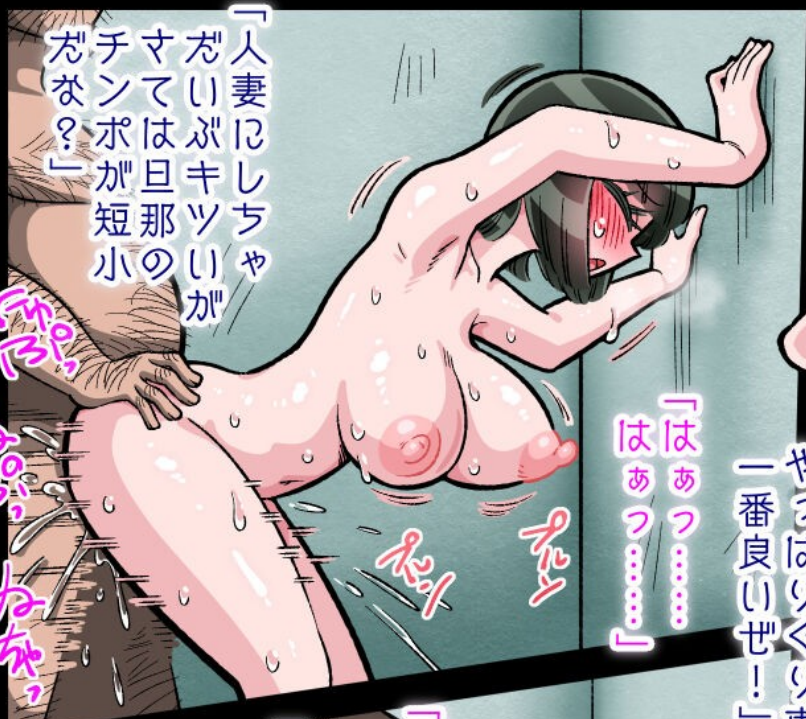
「オイオイ
お前は背が
高いんだから
腰を屈めなま
入れられねえ
だろ」
「チンポ突っ込める
ように腰を落せ！」

「そうそう
そうやって
穴の位置を
合わせるんだよ」

「あゝ……
たまんねえなア……
ネットリしてて
程よくキツくて
エロいマンコだぜ！」

あゝあゝあゝ





「人妻にしちゃ
だいがキツいが
マては旦那の
チンポが短小
だな？」

「はあつ……
はあつ……」

ぬる、ぬる、
ぬる、ぬる、
ぬる、ぬる、

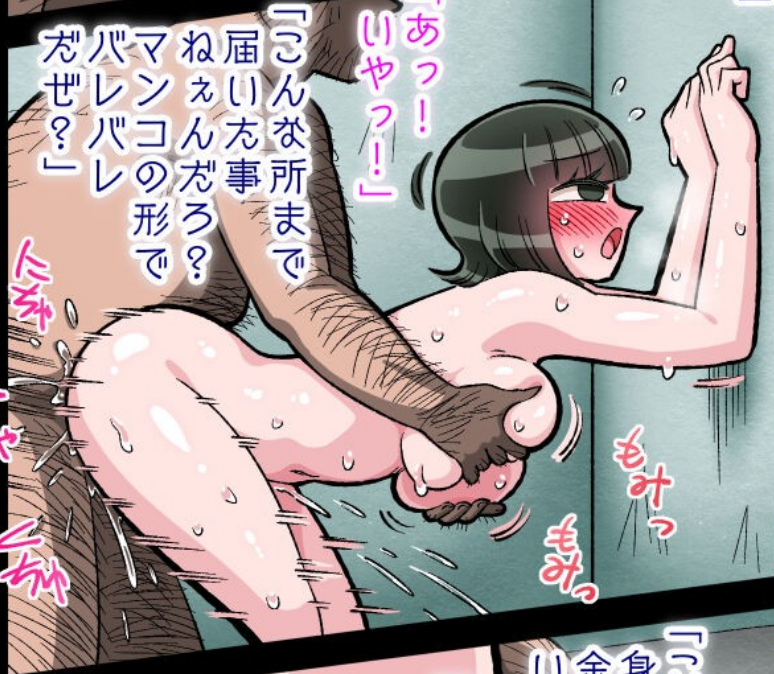


「色んな女を
レイプしたか
やつぱりくり恵が
一番良いぜ！」

「うっ……
うっ……」

ほん、ほん、
ほん、ほん、
ほん、ほん、

ほん、ほん、
ほん、ほん、
ほん、ほん、



「こんな所まで
届いカ事
ねえんぢろ？
マンコの形で
バレバレ
ぢぜ？」

「あつ！
いやつ！」

もみ、もみ、
もみ、もみ、
もみ、もみ、

ぬる、ぬる、
ぬる、ぬる、
ぬる、ぬる、



「毎晩ちゃんど
旦那に喜ばせて
もらってんのか？」

「あつ……
うっ……」

「こんな良い
身体を持って
余してちゃ
いけねえなア」

「や やめて……」

「今日から俺が
くり恵を女に
してやるぜエ」

「ザーメンを
中にぶちまけて
子宮を温めて
やるからよお！」

もみ、もみ、
もみ、もみ、
もみ、もみ、

むっ、むっ、
むっ、むっ、
むっ、むっ、

ぬる、ぬる、
ぬる、ぬる、
ぬる、ぬる、

「いやいやっ……!!」

「くり恵っ!!
今度こそ逃さねえ!!
性奴隷になりやがれエ!!」

「あうう……
うう……」

「うおおっ……
くり恵っ
くり恵えっ!!」

ドクドク
ドクドク

びびる

「どうだ 再会を祝した
濃厚種付けのお味はよオ」

「昔のレイプも
今日の不貞行為も
バラサれたくなけりゃ
……判つてんな？」

「は……
は……」

びびる

びびる

「うう……
性奴隷に
なります……」

ドクドク

びびる





チラ



「は……」



「俺と十年ぶりにセックスしてからどうして方?」
「思い出してワレメこすり回して方んじゃねえか?」



「時間通りだな来てくれてうれしうぜ」



「おっ パンティが丸見えになっ方瞬間にエロいニオイ漂ってき方ぜ」

「こりゃマンコも出来上がってやがるな?」

チキ

すーん



「今夜は俺のマイホームで思う存分楽しませてやるぜ」

「何ぼさつと立ってんだ早く素っ裸になるんだよ」

「……」

「やつぱりトロトロに
なつてやがったなァ」

「うっ あっ
あうっ……」

「ビッシヨリ濡れた
エロマンコが
チンポからザーメン
搾り取る動き
してるぜえ！」

「おらっ 潮吹け！
敏感マンコ痙攣
マセながら
エロ汁吹き出せ！」

「い いやっ……
やだっ やっ……」

ニャ
ぬゃ
びゃ
ぢゃ
ぢゃ

びんっ

「あああつ！
だめだめっ
だめえっ！」

「へへ 勃起が止まらねえよ
今度は俺が楽しませて
もらう番だな……？」

「はあ はあ
はあ……」

いああ〜

アアアア！！



「とつとつ中に
入りやがれ!
案外気に入るかも
しれねえぞろ?」

「うわ……」

「ちよつと小せえかど
くり恵だつ足がはみ出る
かもしれねえけつ……
まあ 気に入んぞ!」



「うわ……
く……
臭い……」

「んわわ……
んぱつ……
わわわ!」



「くり恵つ! くり恵えつ!
お前は俺の女だつ!
一生俺の物なんぞよつ!」

「あうつ
はうう……」

ぬん
ぬん



「くり恵ちゃあ……
俺の愛の巣へ
ようこそオ!」

「や やだつ……
狭い……」

モッ
モッ

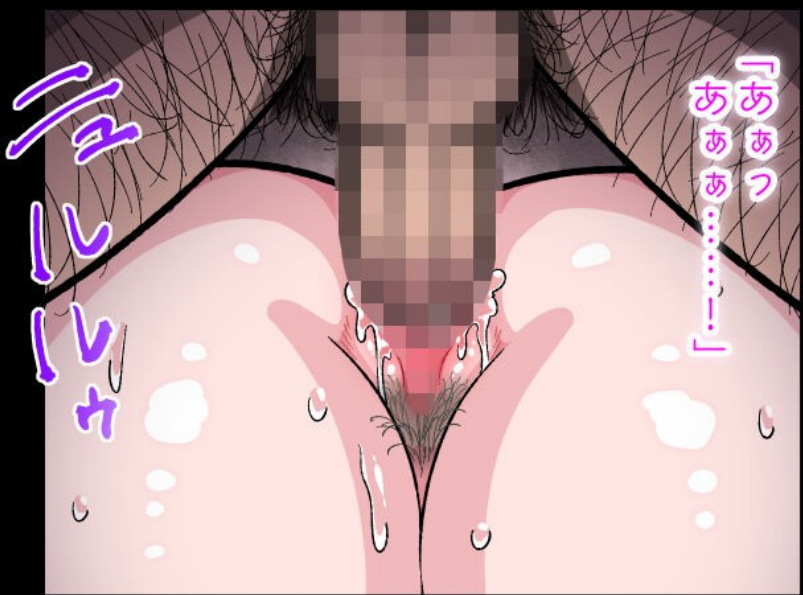
「入れるぞ
くり恵っ!
生マンコに
挿入マセろ!」



「あっ!
あっ!」

ゼンマイ

「ああっ
あああ……!」

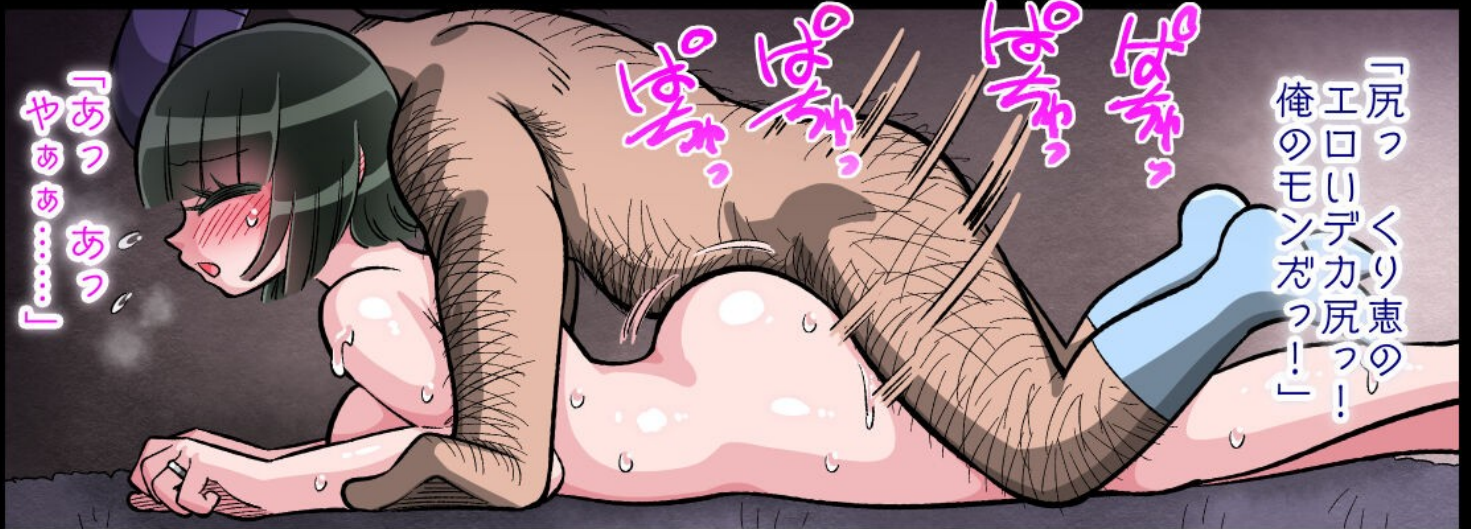


シシレカ

「尻っ
エロいデカ尻っ!
俺のモンぢっ!」

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

「あっ
あっ
やああ……!」



「くり恵を
レイプした日から
この感触を
忘れろ事は
一度もねえ!」

ぬちぬち
かいた
ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

「んっ
むぶっ
んむううっ!」



「何人レイプしても
この身体を
知っちゃまっ方ぢ
満足できねえっ!」

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

「あっ
あっ
あっ♡」

「くり恵っ!
中に出すぞっ!」

ビクン

ビクン



「俺に犯されながら
イキやがれっ!!」

「あぁっ♡
あぁあぁっ♡♡♡」



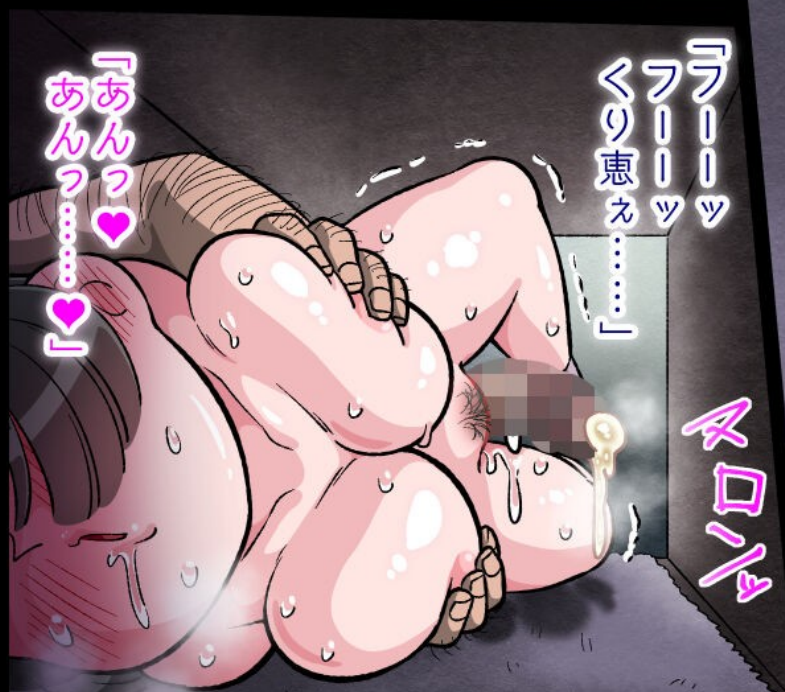
「あつ……♡
あぁつ……♡」



「フリーツ
くり恵え……」

「あんっ♡
あんっ……♡」

「アロム」



「イッちな？
俺とのセックスで
くり恵はイッちんだ」

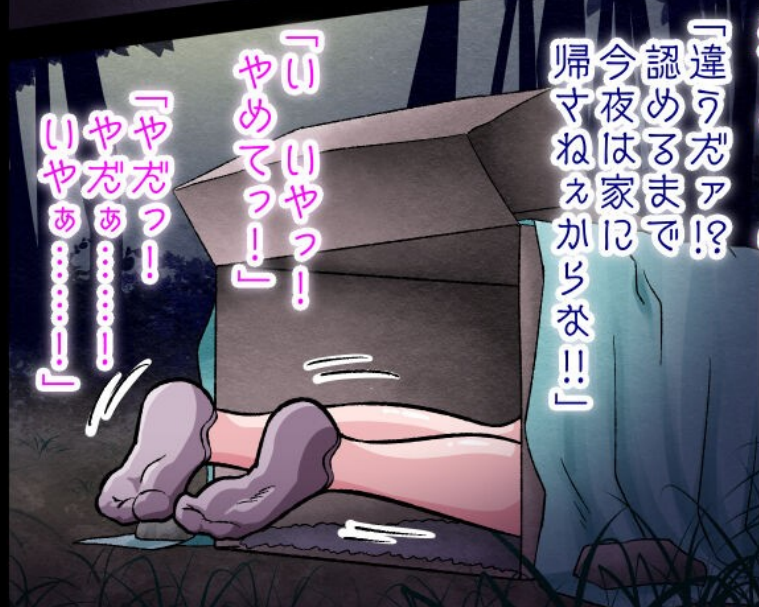
「はぁっ はぁっ
ち 違う……」

「違うの……」

「違うだア!?
認めるまで
今夜は家に
帰さねえからな!!」

「いやッ!
やめてっ!」

「やだっ!
やだあ……!!
いやあ……!!」



「へえ (ここが) くり恵と旦那さんの 寝室ねえ……」

「綺麗な部屋で うらやましいぜ」

「ワリいな 押しかけちまって でも勃起が収まらなくて 我慢が出来なくてよオ」

「お お願い…… 家には来ないで…… 主人に知られ方……」

「あなたと会ってる所を 誰かに見られ方…… 困るの……」

「なら旦那が帰って来る前に 早く済ませちまおうぜ」

「うう……」

「あつ…… やつ……」

ふんふん

「俺の事を 旦那だと思って あのベッドで 楽しんでくれよなァ！」

あみ

「ううっ……
くうう……」

「どうだ
俺のチンポで
ほじくられて
気持ち良いだろ？」

「はあっ……
はあっ……」

「旦那の粗末な物じゃ
届かない所まで
グイグイ突っ込まれて
感じてるんだろ？」

「か
な 感じてなんか
無い……」

「嘘つけ こんなに
ギユウギユウに
締め付けてるのにか？」

うんうん
うんうん

ほん
ほん
ほん

ぴちゃ
ぴちゃ

めっちゃ
にちゃ

ぬる
ぬる

ぬる
ぬる

お
お
お

「あ アナタなんかで
気持ちよくなんか……」

もみっ もみっ

「おいおい 忘れろのか？
処女喪失の日に
お前が忘れだけ
イキまくってろのかをよ！」

「えっ……!？」

「ああんっ♡
あはあんっ♡♡♡

もみっ

「ざっ♡
ざもぞっ♡
ざもぞっ♡♡♡

「れいれいぷっ♡
れいぷぞっ♡♡♡

ハッ
ブッ
ブッ

「えっ!?!
な何コレ!?!」

ハッ

「どうやら本当に
忘れてるみたいだね！」

「お前はあの日
エロい喘ぎ声を
上げながら
犯されるのを
楽しんでいっただよ！」

「大人しそうな顔をして
本当はセックスに
興味津々な変態女
だったって事マ！」

「犯してっ♡♡♡
犯してええっ♡♡♡」

ムセムセ

ゼルルルッ!

「中に出してっ♡♡♡
私を汚してえっ♡♡♡」

「ああわ私……
そうだ……あの時……
私はレイプで喜んで……」

「思い出したか？
レイプをおねだりする
女なんて初めて
だっ方ぜ」

「もっ……♡
もっ……犯して
く……だ……♡」

「セックス……♡
私……セックス
大好きな
変態なんです♡」

「おっ……♡
おっ……♡
んおっ……♡♡♡」

ムセムセ

「もう自分を騙す
必要なんて
ねえからな！」

「セックス好きとして
産まれ方事は
何も悪い事じゃ
ねえんだからよ!!」

「は 恥ずかしく無い??
セックス好きなの?
悪いことじゃ 無い??」

「ザモ
ザモ
ザモ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ」

ほん、
ほん、
ほん、

ふるわ!

ちんぽ!

「ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ」

たぶん、

ほん、

ほん、

ほん、

ほん、

たぶん、

「悪い事なんか
ねえんだよ!!
気持ちよく
なりてえんだろ!」

「なり
なり
なり
なり
なり
なり」

ぬち
ぐち

ちち
ちち

どぼ、どぼ

どぼあか!

「いやらしい
くり恵の「トッ
♡♡♡」

おっぱい

「いっぱい
気持ちよく
してえええっ
♡♡♡」

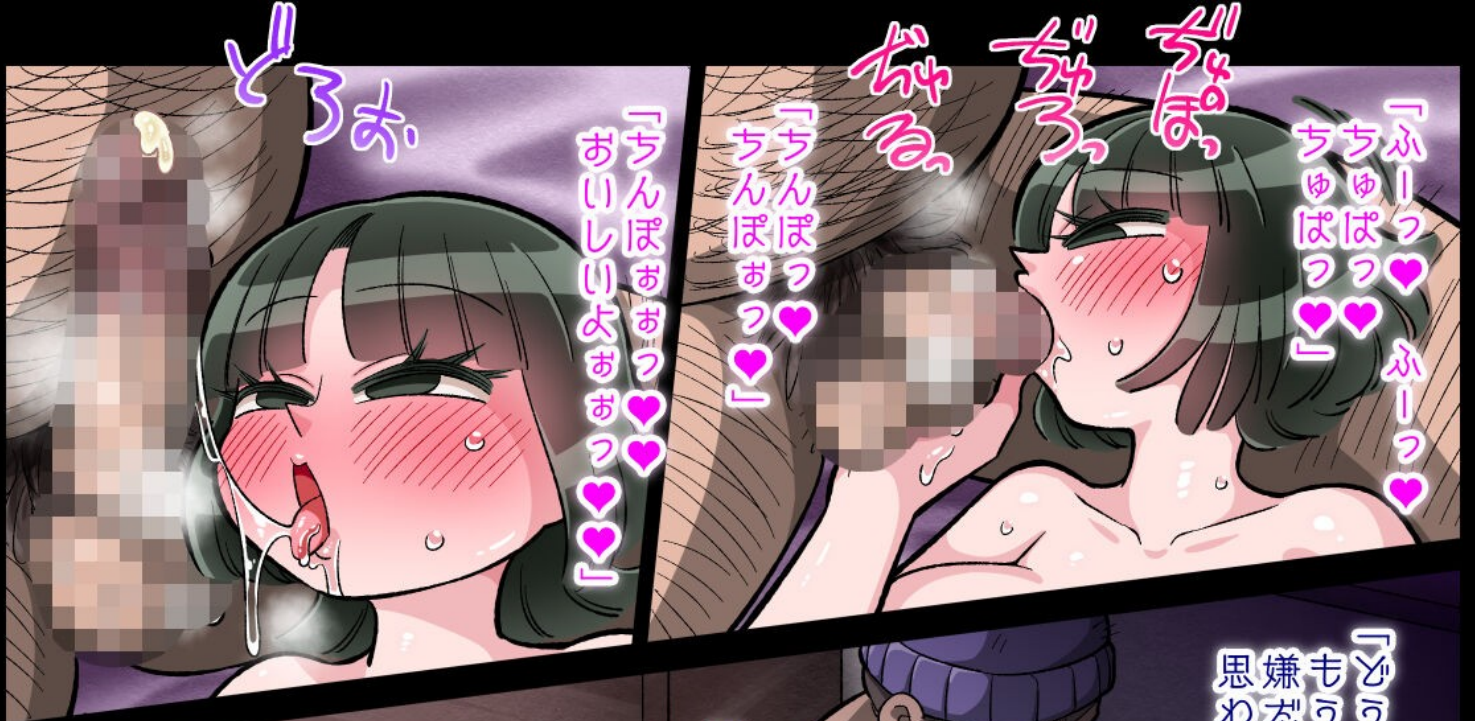
おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい





どろみ

「ちんぽおつ♡♡♡
おいしいよおつ♡♡♡」

「ちんぽおつ♡♡♡
ちんぽおつ♡♡♡」

ぢゅぽ
ぢゅぽ
ぢゅぽ

「ふーっ♡♡♡
ちゅぽっ♡♡♡
ちゅぽっ♡♡♡」



「どうだっちセックスくり恵
もう俺とのセックスが
嫌だなんて
思わないよな？」

「セックス……♡♡♡
セックス好き♡♡♡」

「可愛いくり恵の為に
これからもたくまん
セックスしてやるからな？」

「嬉しい……♡♡♡
嬉しいよお……♡♡♡」

「そうだ
昔のくり恵み方いに
髪を伸ばせよ
その方が可愛いぜ」

「はい……♡♡♡
伸ばします……♡♡♡
アナタ好みの女に……
なります……♡♡♡」

ゴポッ

ぢゅぽ
ぢゅぽ
ぢゅぽ

「よお くり恵 今日も色っぽいなア」

「……………」

「これ…
今月の
お金……」

「おう 悪いな
いつも助かってるぜ」

「お札に今日の
ラブホ代は
俺が出してやるよ」

「お
お金……
ギャンブルにばっか
使わないで……」

「わか
わかってるつて！
ちゃんと半分は
貯金してるからよオ」

「ちゃん
ちゃんと栄養ある物
食べて……」

ズリ
ズリ

くしゃ

「心配してくれんのか？
嬉しいねえ……!!
じゃあ今度 くり恵の
手料理を食べさせてくれよ！」

おしゃんこ♡

「……………」
らんらん……」

「お料理……
がんばるね……♡」



オワリ
終



くり恵から笑顔が消え、
そして戻った理由

終

著者 切傷甲
配信開始 2024年3月

■ブログ

<https://ci-en.dlsite.com/creator/4699>

■SNS

<https://twitter.com/kirikizu1>

□ご意見・ご感想など

https://odaibako.net/u/kirikizukoh_post

作切傷甲

くり恵から笑顔が消え、
そして戻った理由

「孕め孕め孕めえっ!!
知りねえ男の精子で
受精して人生終われ!!」

「むぐぐぐぐぐぐ!!」

ドクドク
ドクドク
ドクドク

びゅん

びゅん

るるる

んんん

びゅん
びゅん
びゅん

「あ
あ……
いや
あ……」



「くり恵ちゃんねえ……
クリトリスみてえな
エロい名前してるじゃねえか」

「よし 今日からお前は
俺の性奴隷だからな!」

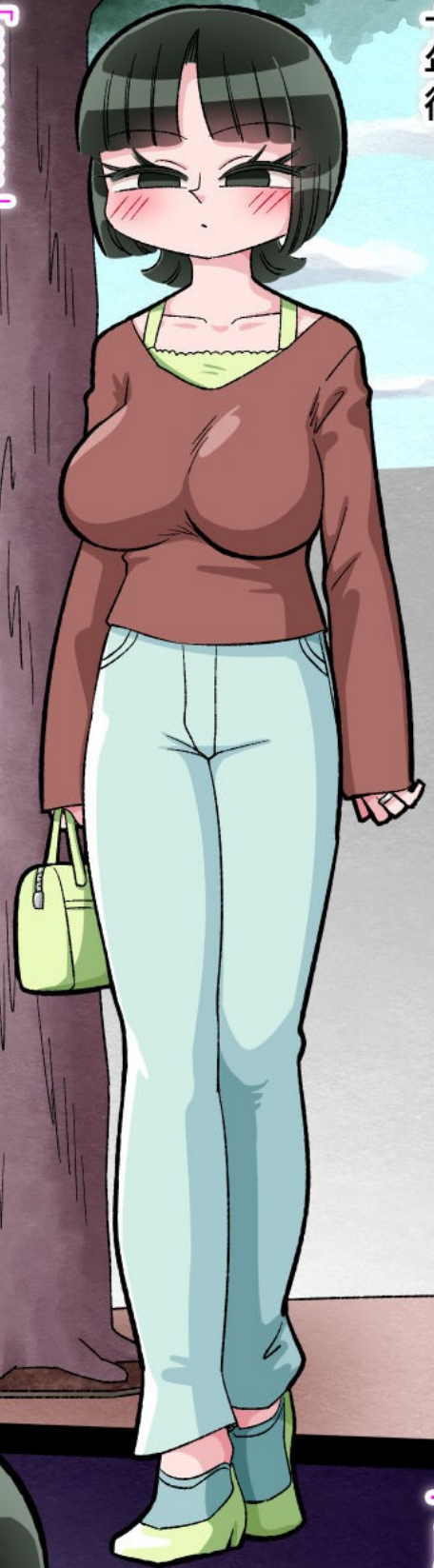
「名前も住所も
全部バレてるんだ
逃げようなんて
思うなよ?」

「ちすけて……
だれか……」

かん

十年後

「……」



「!!」

「なつかしいなア
俺の性奴隷にする
つて言っただのに
直後に引越して
やがってよお」
「ずっとな会いたいよ
思ってたぜえ……」



「おい……
お前 くり恵
じゃねえか？」

「やっぱり
そうだ!
くり恵だ!」



「……？」

「忘れちまつたか?
まあ仕方ないが
俺もだいたいぶ
落ちぶれた方
からなあ……」

「ほり お前を
レイプした……」



「あの時の
男だよ!」



トスッ

「そうそう
コレだよコレ！」

「このデッケエ
パイオツを
揉みたくて
ちまりなかつた
んだよ！」

「十年の間に
勝手に人妻に
なりやがって……」
「夫はあの事を
知ってんのか？」

もみ

もみ もみ

「言っ
てねえ
んだろ？」

「言えるワケ
ねえよなア
処女をこんな奴に
捧げちなんて……」

もみ

もみ

「バラサれちくなくけりや
判ってるよな……？」

もみ

「旦那の事を
愛してるんだろ？
嫌われちく
ねえよなア……？」

もみ

「十年経っても相変わらず
良い身体してるじゃねえか」

「ホラ とつとつと
尻を突き出しやがれ
あの日の続きを
するんだよ！」

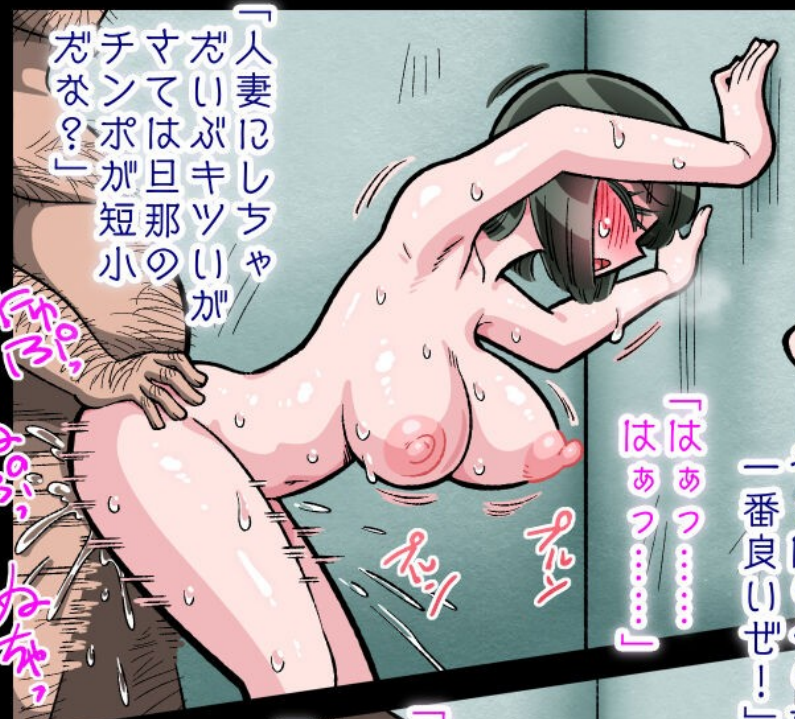
「オイオイ
お前は背が
高いんだから
腰を屈めなま
入れられねえ
だろ」
「チンポ突っ込める
ように腰を落せ！」

「そうそう
そうやって
穴の位置を
合わせるんだよ」

「あゝ……
たまんねえなア……
ネットリしてて
程よくキツくて
エロいマンコだぜ！」

あゝあゝあゝ





「人妻にしちゃう
だいがキツいが
マては旦那の
チンポが短小
だな？」

んんん、
ぬる、
ぬる、
ぬる、

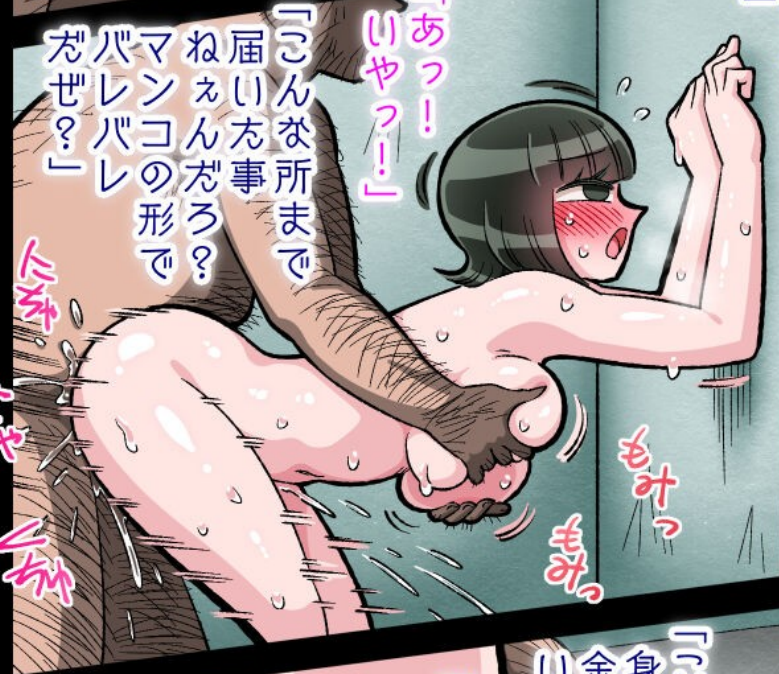
「はあつ……
はあつ……」

「色んな女を
レイプしたか
やつぱりくり恵が
一番良いぜ！」



「うっ……
うっ……」

んんん、
んんん、
んんん、



「こんな所まで
届いカ事
ねえんぢろ？
マンコの形で
バレバレ
ぢぜ？」

んんん、
ぬる、
ぬる、
ぬる、

「あつ！
いやつ！」

もみっ
もみっ



「あつ……
うっ……」

「毎晩ちゃんど
旦那に喜ばせて
もらってんのか？」

もみっ

「こんな良い
身体を持って
余してちゃ
いけねえなア」

「や やめて……」

「今日から俺が
くり恵を女に
してやるぜエ」
「サーメンを
中にぶちまけて
子宮を温めて
やるからよお！」

ぬる、
ぬる、
ぬる、

もみっ

「いやあぁ……!!!」

「くり恵っ!!
今度こそ逃さねえ!!
性奴隷になりやがれエ!!」

「あうう……
うう うう……」

「うおおっ……
くり恵っ
くり恵えっ!!」

ドクドク
ドクドク
ドクドク

びびる

「どうだ 再会を祝した
濃厚種付けのお味はよオ」

「昔のレイプも
今日の不貞行為も
バラマレたくなけりゃ
……判つてんな？」

「は……
は……」

びびる

びびる

「うう……
性奴隷に
なります……」

ドクドク

びびる



チラ



ヒッ

「は……」



「俺と十年ぶりにセックスしてからどうして方？」

「思い出してワレメこすり回して方んじゃねえか？」



「……」

「時間通りだな来てくれてうれしーぜ」



「おっ パンティが丸見えになっ方瞬間にエロいニオイ漂ってき方ぜ」

「こりゃマンコも出来上がってやがるな？」

ヤキ

すー



「今夜は俺のマイホームで思う存分楽しませてやるぜ」

「何ぼさつと立ってんだ早く素っ裸になるんだよ」

「……」

「やっぱりトロトロに
なつてやがったなァ」

ぴゅん
ぬちゃ
ちゅん

「うっ あっ
あうっ……」

「ビッシヨリ濡れた
エロマンコが
チンポからザーメン
搾り取る動き
してるぜえ！」

「おらっ 潮吹け！
敏感マンコ痙攣
マセながら
エロ汁吹き出せ！」

「いっいっ……
やだっ やだ……」

びゅん

「あああつ！
だめだめっ
だめえっ！」

「へへ 勃起が止まらねえよ
今度は俺が楽しませて
もらう番だな……？」

「はあ はあ
はあ……」

いっいっ……

アアアア！！



「とつとつ中に
入りやがれ!
案外気に入るかも
しれねえだろ?」

「うわ……」

「ちよつと小せえかど
くり恵だつ足がはみ出る
かもしれねえけつ……
まあ 気に入んな!」



「うわ……
臭い……」

「んうわ……
んぱつ うわ……」



「くり恵つ! くり恵えつ!
お前は俺の女だつ!
一生俺の物なんだよつ!」

「あうつ
はうう……」

ぬん
ぬん



「くり恵ちゃあゝん!
俺の愛の巣へ
ようこそオ!」

「や やだつ……
狭い……」

モッ モッ

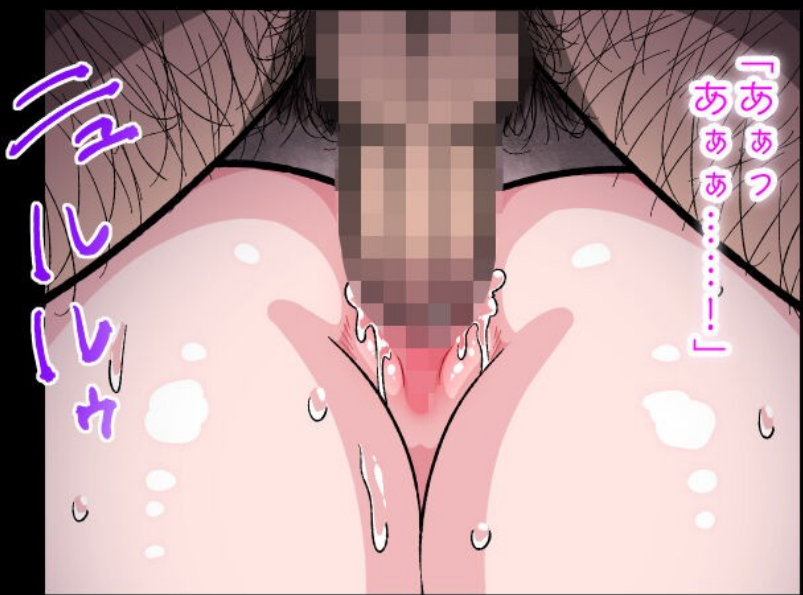
「入れるぞ
くり恵っ!
生マンコに
挿入ませろ!」



「あっ!
あっ!」

ビクッ
ビクッ

「ああっ
あああ……!」

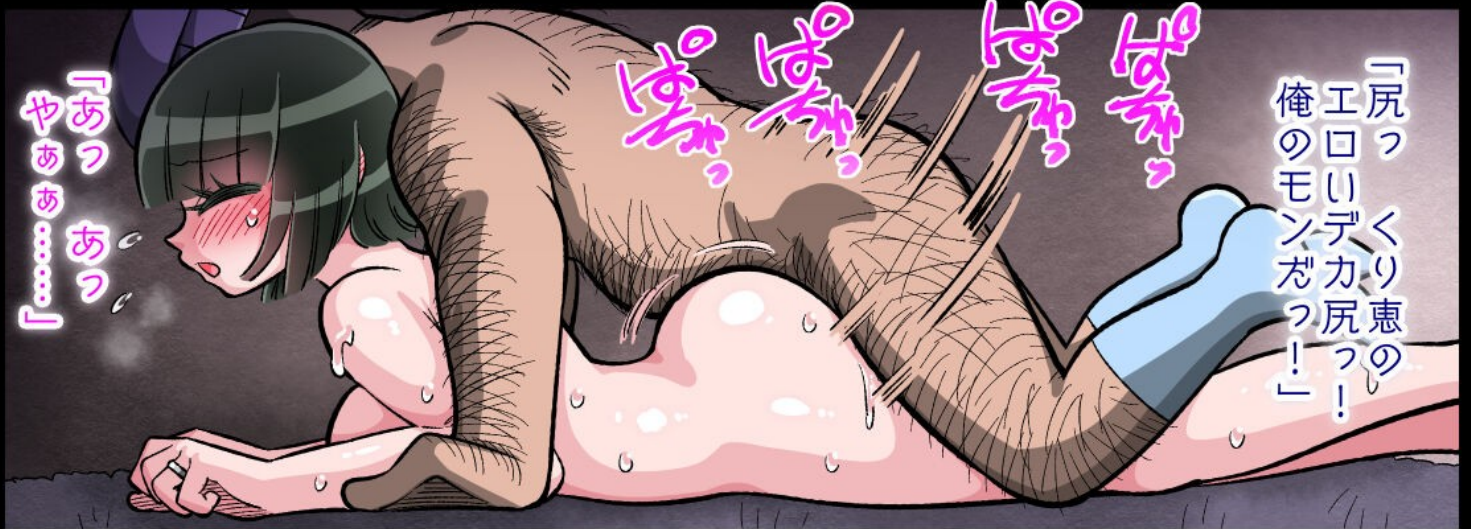


ビクッ
ビクッ

「尻っ
エロいデカ尻っ!
俺のモンだっ!」

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

「あっ
あっ
やああ……!」



「くり恵を
レイプした日から
この感触を
忘れろ事は
一度もねえ!」

ぬちぬち
ぬちぬち
ぬちぬち
ぬちぬち

「んっ
むぶっ
んむううっ!」



「何人レイプしても
この身体を
知っちゃまっろ
満足できねえっ!」

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

「あっ
あっ
あっ♡」

「くり恵っ!
中に出すぞっ!」

ビクッ
ビクッ

ビクッ
ビクッ



「俺に犯されながらイキやがれっ!!」

「あぁっ♡
あぁあぁっ♡♡♡」



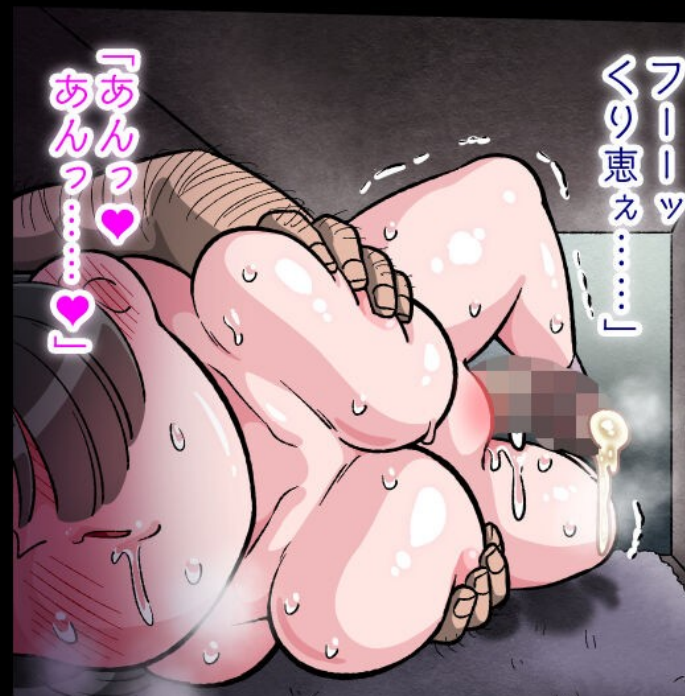
「あっ……♡
あぁっ……♡」

ズンズン

「フリーツ
くり恵え……」

マロン

「あんっ♡
あんっ……♡」



「イッちな？俺とのセックスでくり恵はイッちんだ」

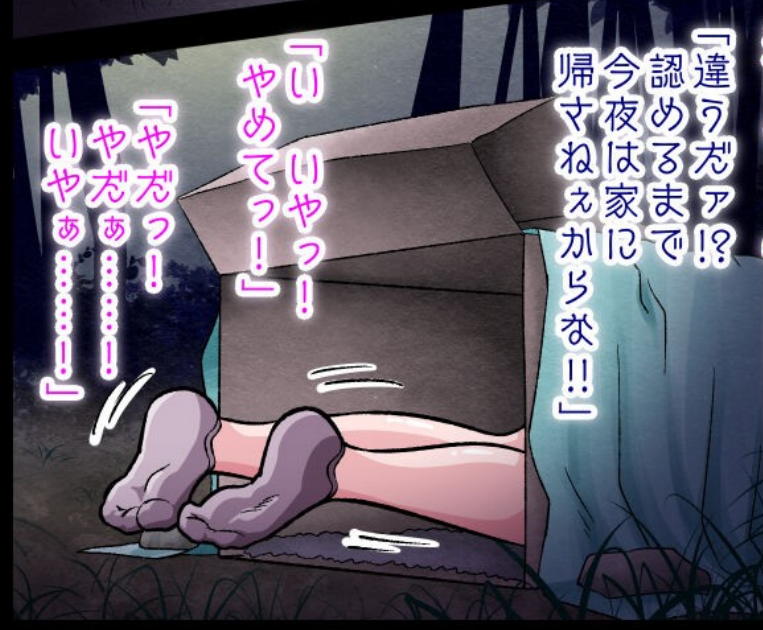
「はぁっ はぁっ
ち 違う……」

「違うの……」

「違うだア!?
認めるまで
今夜は家に
帰さねえからな!!」

「いやッ!
やめてっ!」

「やだっ!
やだあ……!!
いやあ……!!」



「へえ「ここが
くり恵と旦那さんの
寝室ねえ……」

「綺麗な部屋で
うらやましいぜ」

「ワリいな 押しかけちまって
でも勃起が収まらなくて
我慢が出来なくてよオ」

「お お願い……
いい 家には来ないで……
主人に知られ方……」

「あなたと会ってる所を
誰かに見られ方
困るの……」

「なら旦那が帰って来る前に
早く済ませちまおうぜ」

「うう……」

「あつ……
やつ……」

ふんふん

「俺の事を
旦那だと思って
あのベッドで
楽しんで
くれよなァ！」

あみ

「ううっ……
くうう……」

「どうだ
俺のチンポで
ほじくられて
気持ち良いだろ？」

「はあっ……
はあっ……」

「旦那の粗末な物じゃ
届かない所まで
グイグイ突っ込まれて
感じてるんだろ？」

うんうん
うんうん

ぴちゃ
ぴちゃ

めっちゃ
にゅん

ほん
ほん
ほん

「か
な 感じてなんか
無い……」

「嘘つけ こんなに
ギユウギユウに
締め付けてるのにか？」

ぬる
ぬる

ぬる
ぬる

しゅん
しゅん
しゅん

「あ アナタなんかで
気持ちよくなんか……」

もみっ もみっ

「おいおい 忘れろのか？
処女喪失の日に
お前が忘れだけ
イキまくってろのかをよ！」

「えっ……!？」

「ああんっ♡
あはあんっ♡♡♡

もみっ

「ざっ♡
ざもぞっ♡
ざもぞっ♡♡♡

「れいれいぷっ♡
れいぷぞっ♡♡♡

ハッ
ブッ
ブッ

「えっ!?!
な何コレ!?!」

ハッ
ハッ

「どうやら本当に
忘れてるみたいだね！」

「お前はあの日
エロい喘ぎ声
上げながら
犯されるのを
楽しんでいっただよ！」

「大人しそうな顔をして
本当はセックスに
興味津々な変態女
だったって事マ！」

「犯してっ♡♡♡
犯してええっ♡♡♡」

セックス

ゼッ! ゼッ!

「中に出してっ♡♡♡
私を汚してええっ♡♡♡」

「ああわ私...
そうぞ...あの時...
私はレイプで喜んで...」

「思い出し方か?
レイプをおねだりする
女なんて初めて
だっ方ぜ」

「もっ♡...
もっ♡犯して
くぞまい♡...」

「セックス...
私セックス...
大好きな
変態なんです♡」

「おっ♡...
おっ♡♡
んおおっ♡♡♡」

ズンズンズン

「もう自分を騙す
必要なんて
ねえからな！」

「セックス好きとして
産まれ方事は
何も悪い事じゃ
ねえんだからよ!!」

「は 恥ずかしく無い??
セックス好きなの?
悪いことじゃ 無い??」

「ザモ
ザモ
ザモ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ」

ほん、
ほん、
ほん、

ふるわ!

ちんぽ!

「ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ」

たぶん、

ほん、

ほん、

ほん、

ほん、

たぶん、

「悪い事なんか
ねえんだよ!!
気持ちよく
なりてえんだろ!」

「なり
なり
なり
なり
なり
なり」

ぬち
ぐち

ちち
ちち

どぼ、どぼ

どぼあか!

「いやらしい
くり恵の「トッ
♡♡♡」

おっぱい

「いっぱい気持ちよく
してえええっ
♡♡♡」

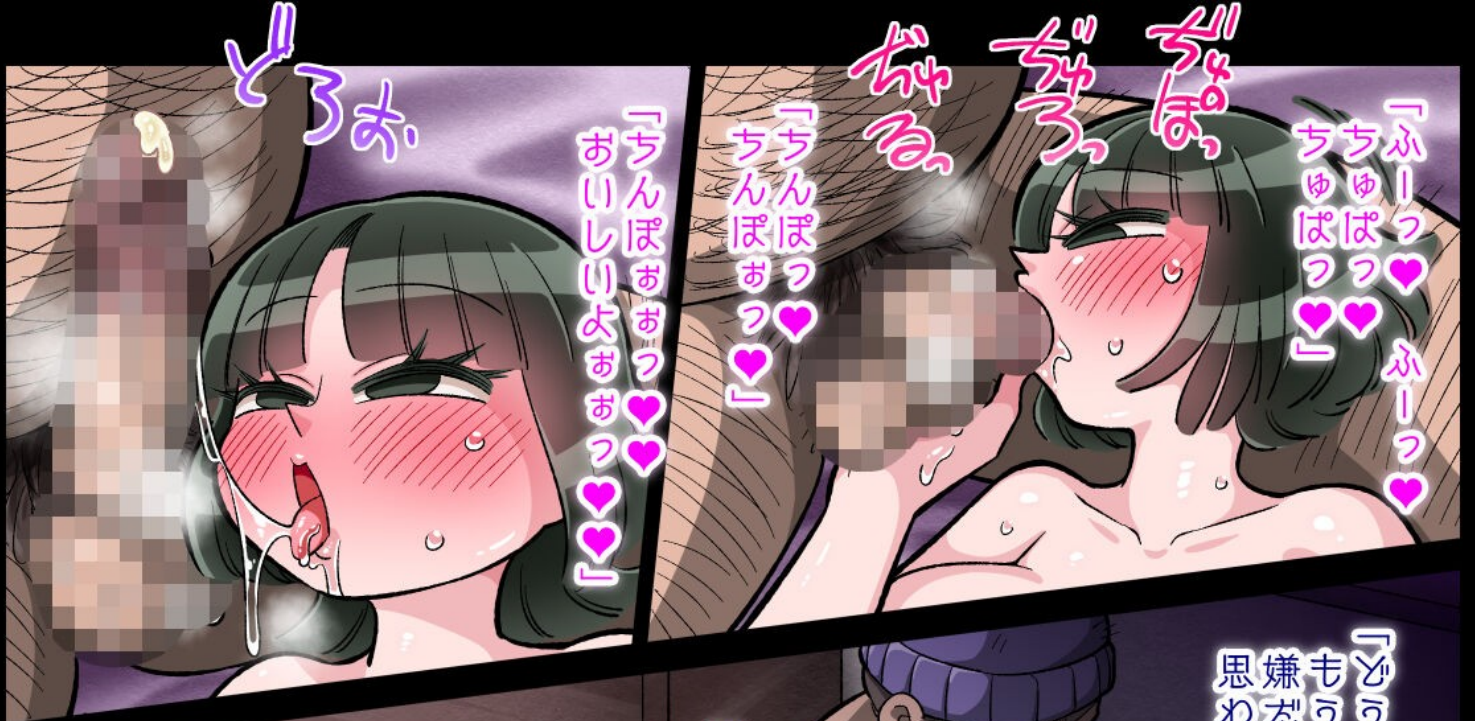
おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい





どろみ

「ちんぽおっ♡♡♡
おいしいよおっ♡♡♡」

「ちんぽっ♡♡♡
ちんぽおっ♡♡♡」

ぢゅぽ
ぢゅぽ
ぢゅぽ

「ふーっ♡♡♡
ちゅぱっ♡♡♡
ちゅぱっ♡♡♡
ふーっ♡♡♡」



「どうだっちセックスくり恵
もう俺とのセックスが
嫌だなんて
思わないよな？」

ぢゅぽ
ぢゅぽ
ぢゅぽ

「セックス……♡♡♡
セックス好き♡♡♡」

「可愛いくり恵の為に
これからもたくまん
セックスしてやるからな？」

「嬉しい……♡♡♡
嬉しいよお……♡♡♡」

「そうだ
昔のくり恵みちいには
髪を伸ばせよ
その方が可愛いぜ」

ゴッポ

「はい……♡♡♡
伸ばします……♡♡♡
アナタ好みの女に……
なります……♡♡♡」

「よお くり恵
今日も色っぽいなア」

「……………」

「これ……
今月の
お金……」

「おう 悪いな
いつも助かってるぜ」

「お札に今日の
ラブホ代は
俺が出してやるよ」

「お
お金……
ギャンブルにばっか
使わないで……」

「わか
わかってるつて！
ちゃんと半分は
貯金してるからよオ」

「ちゃん
ちゃんと栄養ある物
食べて……」

ズリ
ズリ

くしゃ

「心配してくれんのか？
嬉しいねえ……!!
じゃあ今度 くり恵の
手料理を食べさせてくれよ！」

おしゃんこ♡

「……………」
らんらん……」

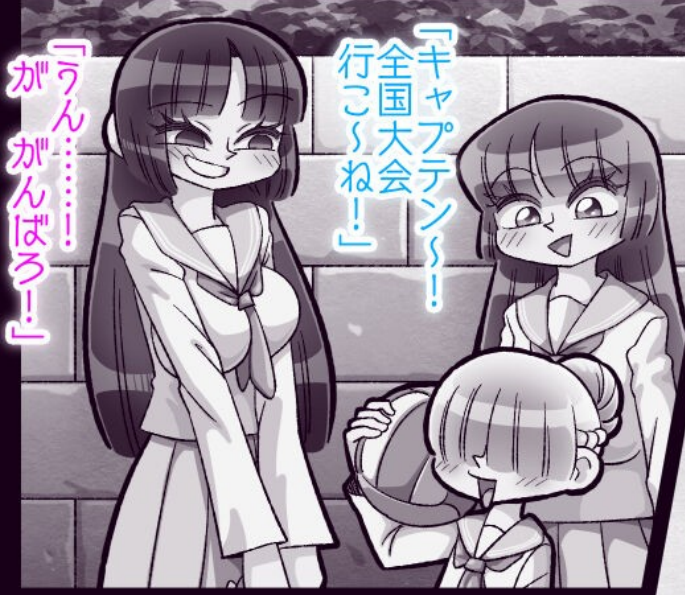
「お料理……
がんばるね……♡」



オワリ
終

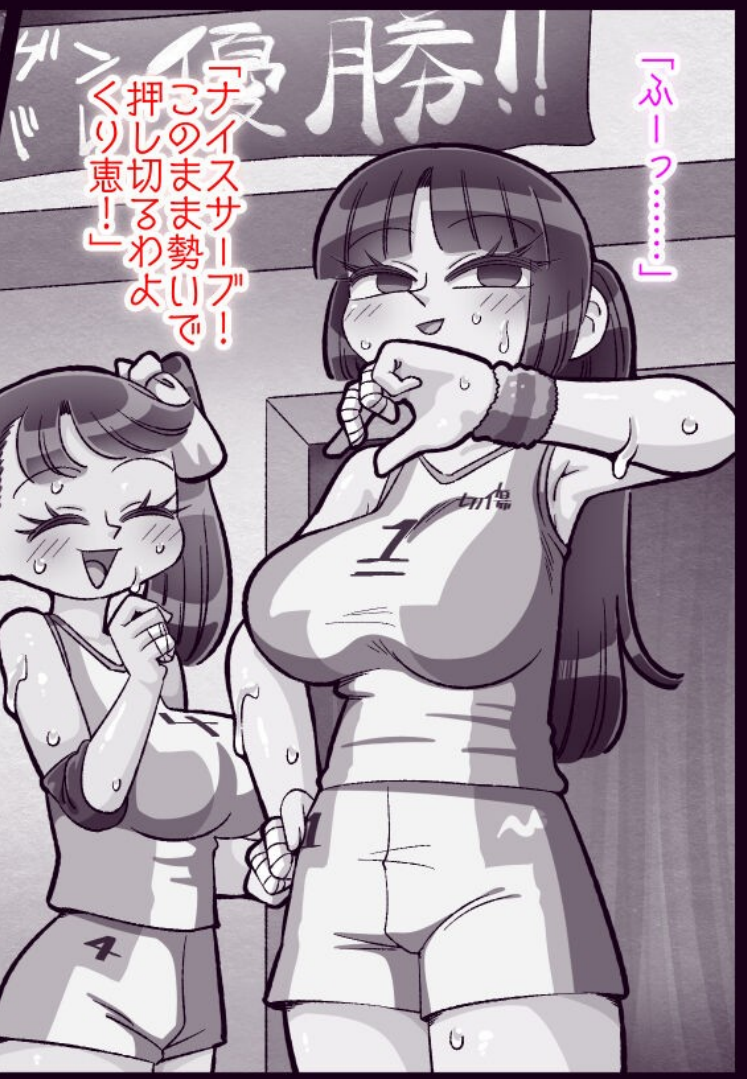
作切傷甲

くり恵から笑顔が消え、
そして戻った理由



「うん………！
がががんばろー！」

「キャアテン〜！
全国大会
行く〜ね！」



「ふーっ………」

「ナイスサーブ！
このまま勢いで
押し切るわよ
くり恵！」



「先輩つて彼氏
居るんですか〜？」

「こら！ 変な事
聞くんじゃないよ！」



「おいコラ！！
生意気に俺を
見下ろすんじや
ねえ！！」

「うっ！
うぐうっ！！」

「膜ブチ破りたての
処女マンコに
中出しするぞ！！」

「んぐうううううううううう！！」

ぐわんぐわん
ぐわんぐわん
ぐわんぐわん

ぐわんぐわん
ぐわんぐわん
ぐわんぐわん

十年後

「……」



「!!」

「なつかしいなア
俺の性奴隷にする
って言うたのに
直後に引越して
やがってよお」
「ずっとな会いたいよ
思ってたぜえ……」



「おい……
お前 くり恵
じゃねえか？」
「やっぱり
そうだ!
くり恵だ!」



「忘れちまつたか?
まあ仕方ねえか
俺もだいたいぶ
落ちぶれた方
からなあ……」

「……?」



「ほり お前を
レイプした……」
「あの時の
男だよ!」



トスッ

「そうそう
コレだよコレ！」

「このデッケエ
パイオツを
揉み充くて
充まりなかつた
んだよ！」

「……………」

「十年の間に
勝手に人妻に
なりやがって……………」
「夫はあの事を
知ってんのか？」

もみ

もみ
もみ

「言っ
てねえ
んだろ？」

「言えるワケ
ねえよなア
処女をこんな奴に
捧げたなんて……………」

「バラサれ充くなけりや
判ってるよな……………」

もみ

もみ

もみ

「旦那の事を
愛してるんだろ？
嫌われ充く
ねえよなア……………」

もみ

「十年経っても相変わらず
良い身体してるじゃねえか」

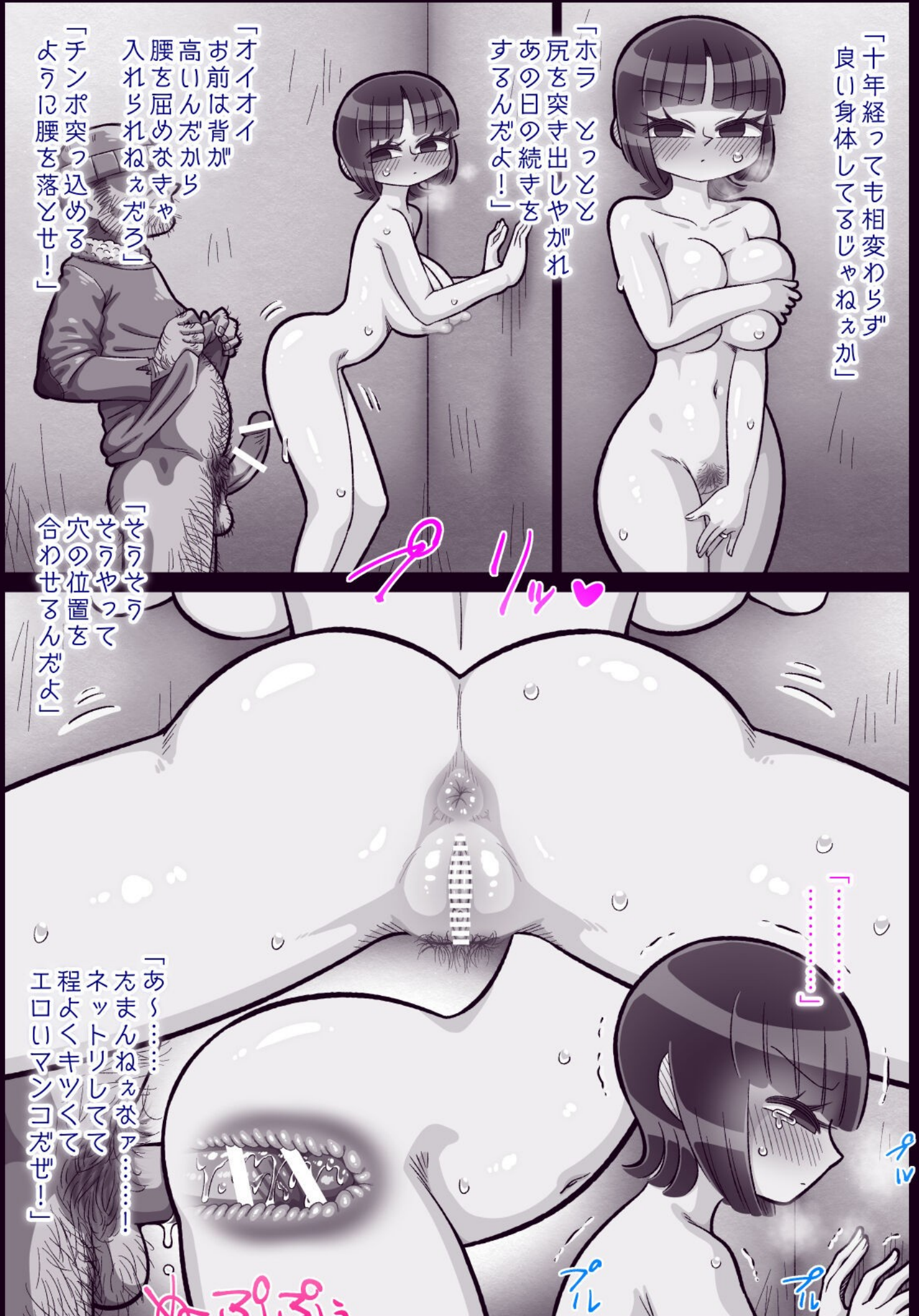
「ホラ とつとつと
尻を突き出しやがれ
あの日の続きを
するんだよ！」

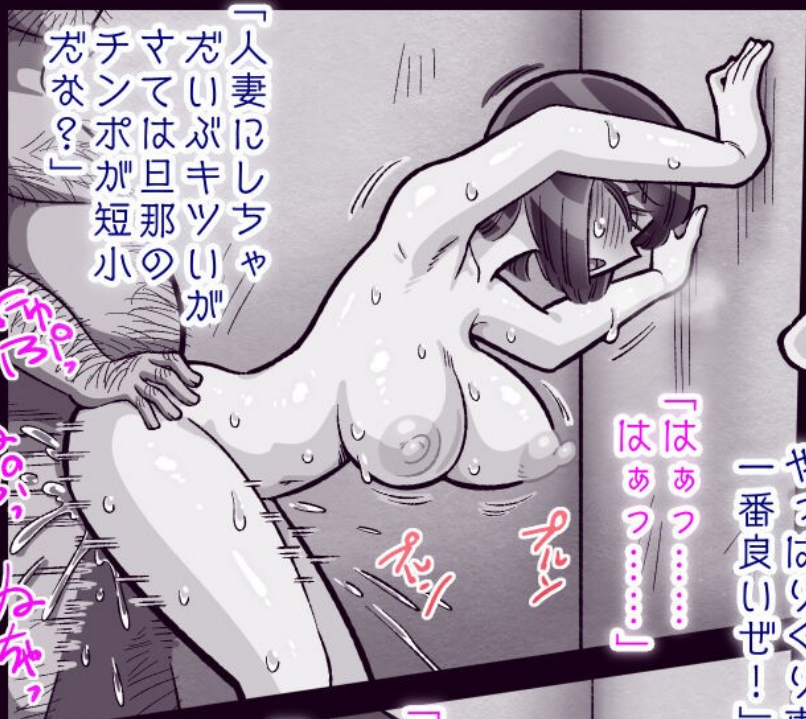
「オイオイ
お前は背が
高いんだから
腰を屈めなま
入れられねえ
だろ」
「チンポ突っ込める
ように腰を落とせ！」

「そうそう
そうやって
穴の位置を
合わせるんだよ」

「あゝ……
たまんねえなア……!!
ネットリしてて
程よくキツくて
エロいマンコだぜ！」

あゝあゝあゝ





「人妻にしちゃう
だいがキツいが
マては旦那の
チンポが短小
だな？」

「はあつ……
はあつ……」

んんん、
ぬん、
ぬん、
ぬん、

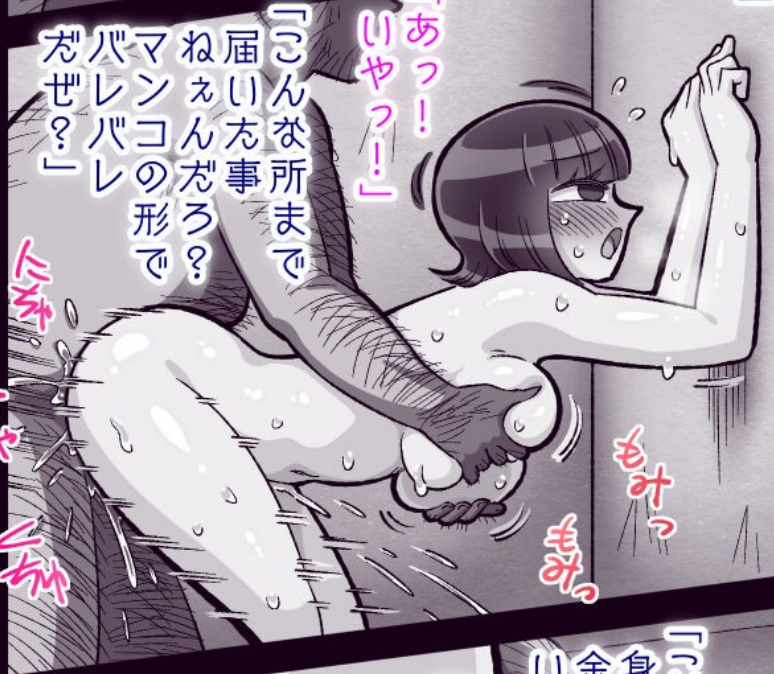


「色んな女を
レイプしたか
やつぱりくり恵が
一番良いぜ！」

「うっ……
うっ……」

ほん、
ほん、
ほん、

ほん、
ほん、

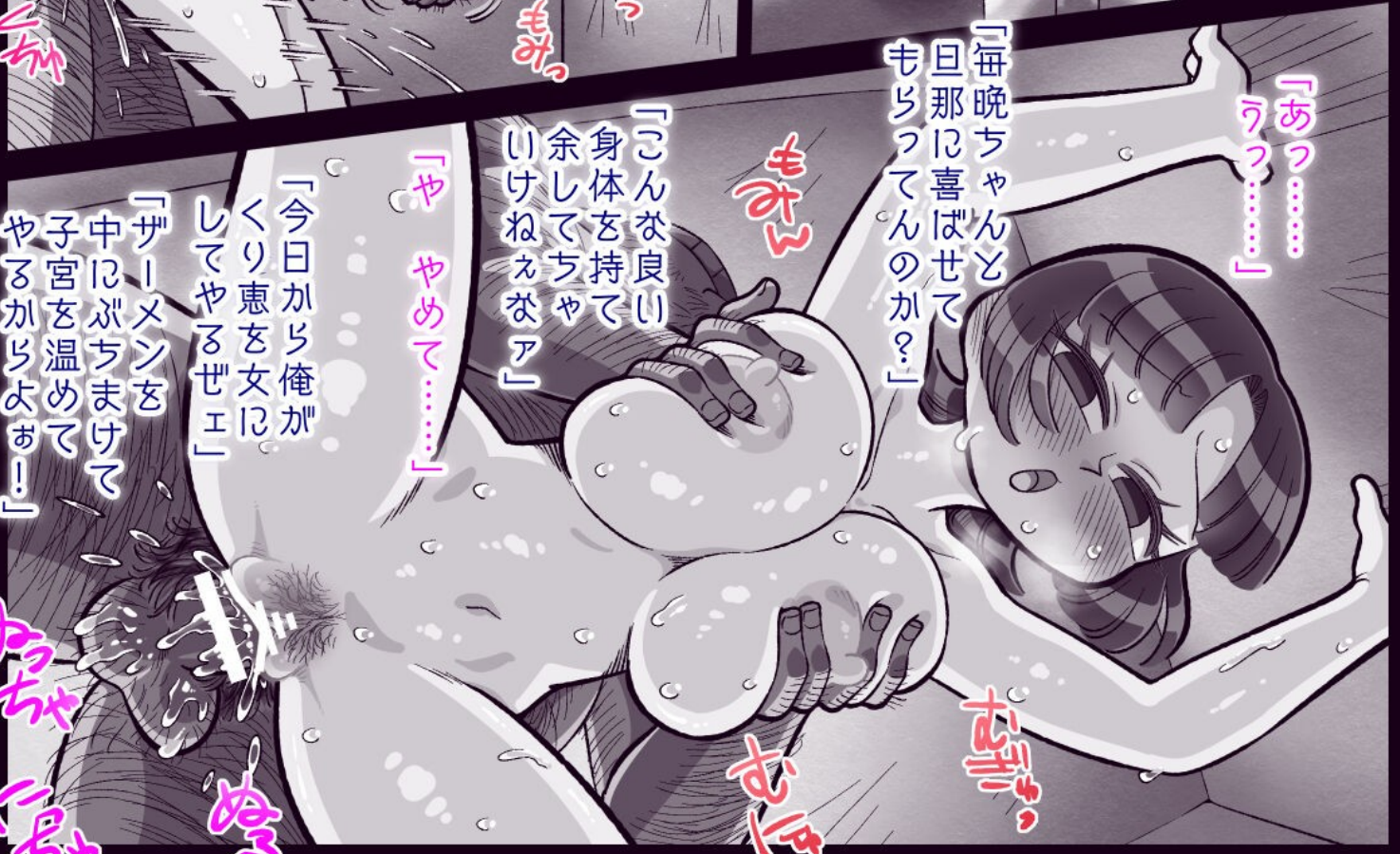


「こんな所まで
届いカ事
ねえんぢろ？
マンコの形で
バレバレ
ぢぜ？」

「あつ！
いやつ！」

もみっ
もみっ

んんん、
ぬん、
ぬん、



「毎晩ちゃんど
旦那に喜ばせて
もらってんのか？」

「あつ……
うっ……」

「こんな良い
身体を持って
余してぢや
いけねえなア」

「や やめて……」

「今日から俺が
くり恵を女に
してやるぜエ」

「ザーメンを
中にぶちまけて
子宮を温めて
やるからよお！」

もみっ

もみっ

もみっ

ぬん、
ぬん、
ぬん、

「いやいやっ……!!」
「いやああ……!!」

「くり恵っ!!」
「今度こそ逃さねえ!!」
「性奴隷になりやがれエ!!」

「あうう……」
「うう うう……」

「うおおっ……」
「くり恵っ くり恵えっ!!」

ドクドク
ドクドク
ドクドク
ドクドク

びびる
びびる
びびる

「どうだ 再会を祝した
濃厚種付けのお味はよオ」

「昔のレイプも
今日の不貞行為も
バラマレたくなけりゃ
……判つてんな？」

「は……は……」
「は……は……」

びびる
びびる
びびる

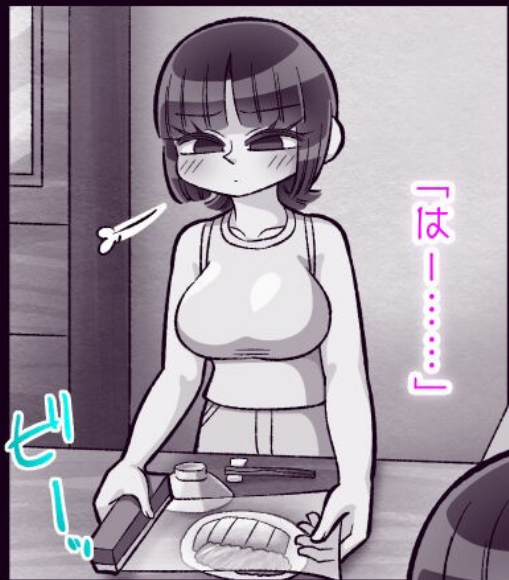
「うう……」
「性奴隷に
なります……」

ドクドク……

ドクドク……



チラ



「は……」



ごめん
今日も帰れない…
料理仕舞っておいて

20:37



20:45 既読



「俺と十年ぶりにセックスしてからどうして方？」

「思い出してワレメこすり回して方んじゃねえか？」



「時間通りだな来てくれてうれしいぜ」

「……」



「おっ パンティが丸見えになっ方瞬間にエロいニオイ漂ってき方ぜ」

「こりゃマンコも出来上がってやがるな？」

ヤキ

すー



「今夜は俺のマイホームで思う存分楽しませてやるぜ」

「何ぼさつと立ってんだ早く素っ裸になるんだよ」

「……」

「やっぱりトロトロに
なつてやがったなァ」

「うっ あっ
あうっ……」

「ビッシヨリ濡れた
エロマンコが
チンポからザーメン
搾り取る動き
してるぜえ！」

「おらっ 潮吹け！
敏感マンコ痙攣
マセながら
エロ汁吹き出せ！」

「い いやっ……
やだっ やっ……」

ニヤ ニヤ
ぬい
びや

ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ

びん

「あああつ！
だめだめっ
だめえっ！」

「はあ はあ
はあ……」

「へへ 勃起が止まらねえよ
今度は俺が楽しませて
もらう番だな……？」



あーん

アアアア！！

「とつとつ中に
入りやがれ!
案外気に入るかも
しれねえぞろ?」

「うわぁぁぁ」

「ちよつと小せえかど
くり恵だど足がはみ出る
かもしれねえけど……
まあ 気にすんな!」



「うわぁぁぁぁぁ
く臭い……」



「んんんんん……
んぱっ っわっわっ!」



「くり恵っ! くり恵えっ!
お前は俺の女だっ!
一生俺の物なんぞよっ!」

「あうっ
はうう……」

ぬんぬん

「くり恵ちゃあゝん!
俺の愛の巣へ
ようこそオ!」

「や やだっ……
狭い……」



モッ モッ

「入れるぞ
くり恵っ！
生マンコに
挿入マセろ！」

「あっ！
あっ！」

ビクッ
ビクッ

「ああっ
あああ……！」

ビクッ
ビクッ

「尻っ
くり恵の
エロいデカ尻っ！
俺のモンぢっ！」

ぽんぽん
ぽんぽん

「あっ
あっ
やああ……！」

「くり恵を
レイプした日から
この感触を
忘れろ事は
一度もねえ！」

ぬちぬち
かいた
ぽんぽん
ぽんぽん

「んっ
むぶっ
んむううっ！」

「何人レイプしても
この身体を
知っちゃまっろ
満足できねえっ！」

ぽんぽん
ぽんぽん

「あっ
あっ
あっ♡」

「くり恵っ！
中に出すぞっ！」

ビクッ
ビクッ

ビクッ
ビクッ

「俺に犯されながら
イキやがれっ!!」

「あぁっ♡
あぁあぁっ♡♡♡」



「あつ……♡
あぁつ……♡」

ズン

ズン



ズン

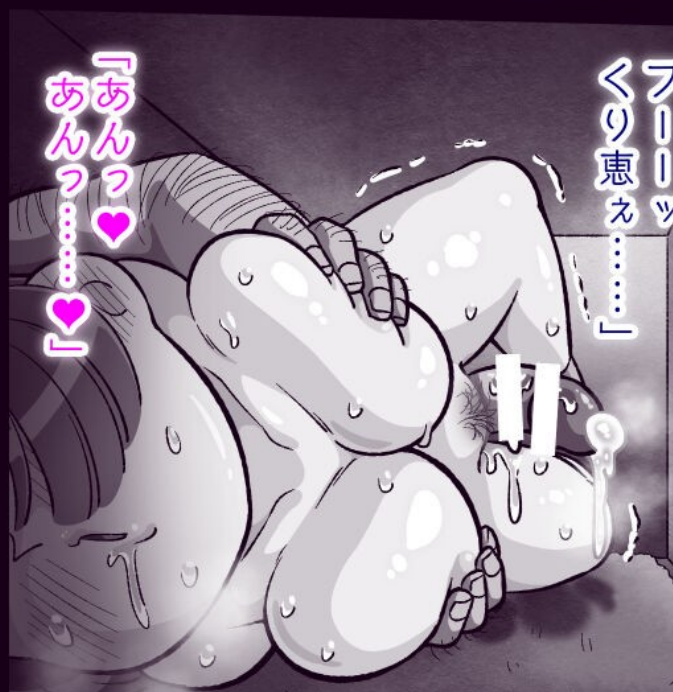
ズン

ズン

「フリーツ
くり恵え……」

ズン

「あんっ♡
あんっ……♡」



「イッちな？
俺とのセックスで
くり恵はイッちんだ」

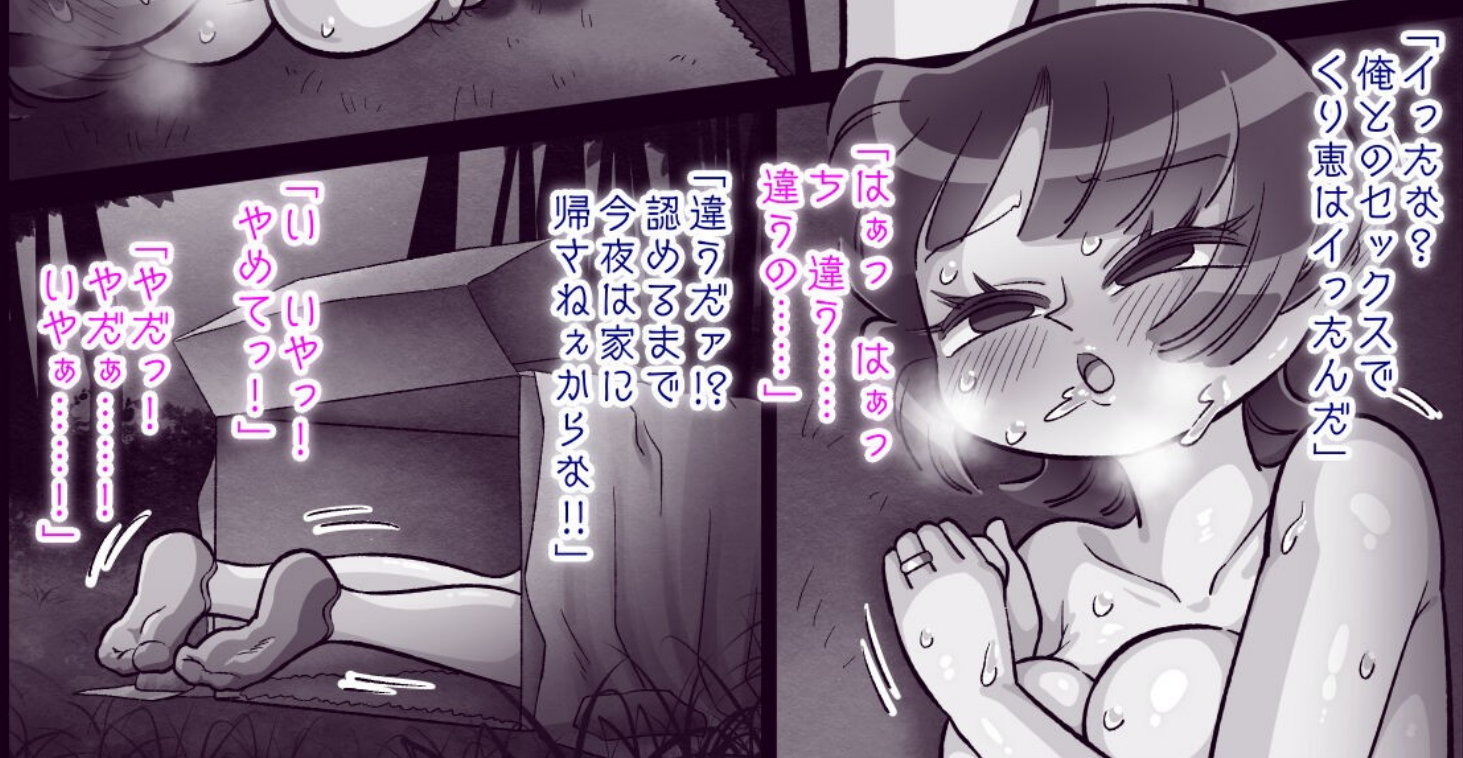
「はぁっ はぁっ
ち 違う……」

「違うの……」

「違うだア!?
認めるまで
今夜は家に
帰さねえからな!!」

「いやっ!
やめてっ!」

「やだっ!
やだあ……!!
いやあ……!!」



「へえ「ここが
くり恵と旦那さんの
寝室ねえ……」

「綺麗な部屋で
うらやましいぜ」

「ワリいな 押しかけちまって
でも勃起が収まらなくて
我慢が出来なくてよオ」

「お お願い……
いい 家には来ないで……
主人に知られ方……」

「あなたと会ってる所を
誰かに見られ方……
困るの……」

「なら旦那が帰って来る前に
早く済ませちまおうぜ」

「うう……」

「あつ……
やつ……」

ふんふん

「俺の事を
旦那だと思って
あのベッドで
楽しんで
くれよなァ！」

あみ

「ううっ……
くうう……」

「どうだ
俺のチンポで
ほじくられて
気持ち良いだろ？」

「はあっ……
はあっ……」

「旦那の粗末な物じゃ
届かない所まで
グイグイ突っ込まれて
感じてるんだろ？」

はあっ
はあっ
はあっ

ぬちゃっ
にちゃっ
ぴちゃ
ぴちゃ

ほん
ほん
ほん

「か
な 感じてなんか
無い……」

「嘘つけ こんなに
ギユウギユウに
締め付けてるのにか？」

はあ
はあ
はあ
はあ

ぬる
ぬる

「あ アナタなんかで
気持ちよくなんか……」

もみっ もみっ

「おいおい 忘れろのか？
処女喪失の日に
お前が忘れだけ
イキまくってろのかをよ！」

「えっ……!？」

「ああんっ♡
あはあんっ♡♡♡

もみっ

「ざっ♡
ざもぞっ♡
ざもぞっ♡♡♡

「れいれいぷっ♡
れいぷぞっ♡♡♡

ズッ
ズッ
ズッ

「えっ!?!
な何コレ!?!」

ズキッ

「どうやら本当に
忘れてるみたいだね！」

「お前はあの日
エロい喘ぎ声を
上げながら
犯されるのを
楽しんでいっただよ！」

「大人しそうな顔をして
本当はセックスに
興味津々な変態女
だったって事マ！」

ムセムセ

「犯してっ♡♡♡
犯してっ♡♡♡
えっ♡♡♡
えっ♡♡♡」

「中に出してっ♡♡♡
私を汚してっ♡♡♡
えっ♡♡♡
えっ♡♡♡」

ザルザル!

「ああわ私……
そうだ……あの時……
私はレイプで喜んで……」

「思い出したか？
レイプをおねだりする
女なんて初めて
だっ方ぜ」

アリ

ムセムセ

「モッ……♡
モッ……♡
く……♡
く……♡」

「セックス……♡
私……♡
大好きな
変態なんです♡」

ムセムセ

「おっ……♡
おっ……♡
んおっ……♡
んおっ……♡」

ムセムセ

「もう自分を騙す
必要なんて
ねえからな！」

「セックス好きとして
産まれ方事は
何も悪い事じゃ
ねえんだからよ!!」

「は 恥ずかしく無い??
セックス好きなの?
悪いことじゃ 無い??」

「ザモ
ザモ
ザモ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ」

ほん、
ほん、
ほん、

ふるわ!

ちんぽ!

「ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ」

ちんぽ、

ちんぽ、

ほん、
ほん、
ほん、

ちんぽ、

「悪い事なんか
ねえんだよ!!
気持ちよく
なりてえんだろ!」

「なり
なり
なり
なり
なり
なり」

ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ

どば、どば、

どばあか!

「いやらしい
くり恵の「トッ
♡♡♡」

どばあか!

どばあか!

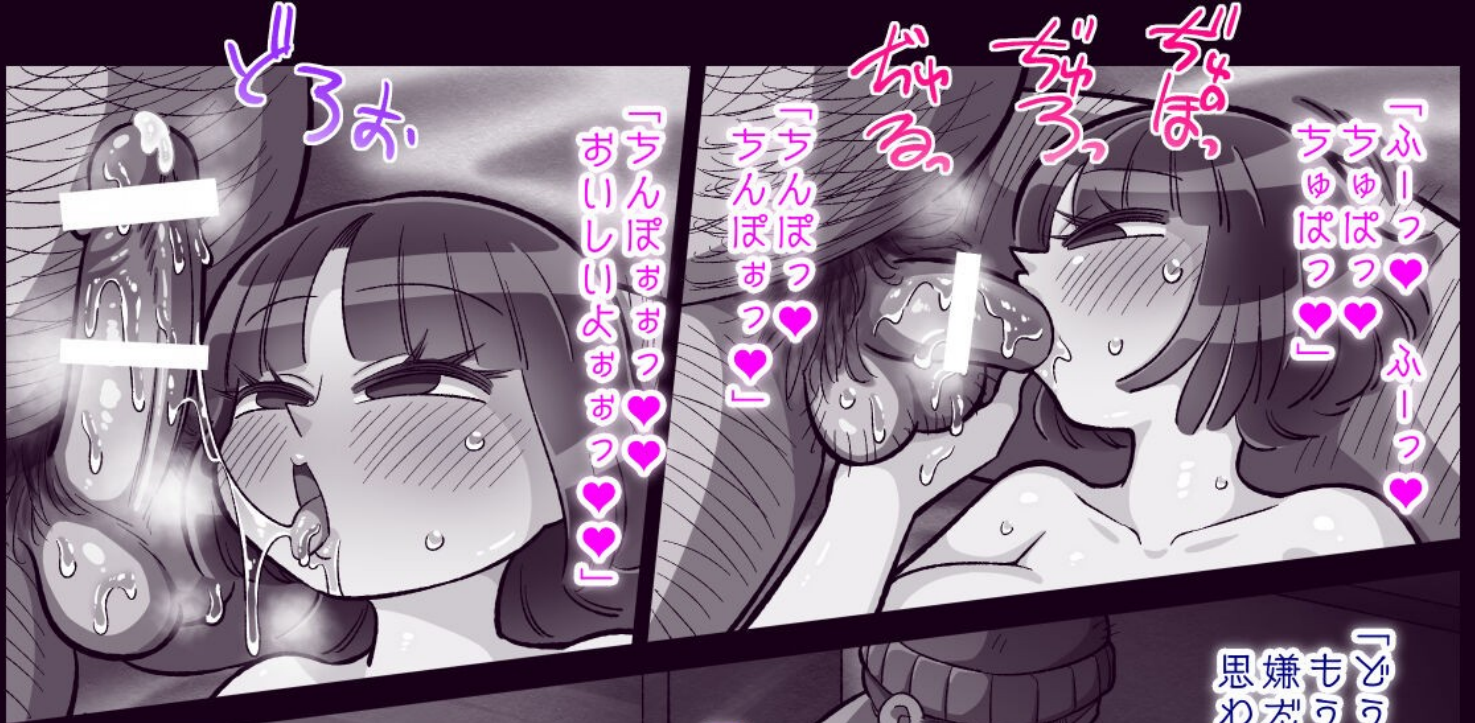
どばあか!

「いっぱい気持ちよく
してえええっ
♡♡♡」

どばあか!

どばあか!





どろみ

「ちんぽおおっ♡♡♡
おいしいよおおっ♡♡♡」

「ちんぽっ♡♡♡
ちんぽおっ♡♡♡」

ぢゅぽ
ぢゅぽ
ぢゅぽ

「ふーっ♡♡♡
ちゅぽっ♡♡♡
ちゅぽっ♡♡♡
ふーっ♡♡♡」



「どうだっち くり恵
もう俺とのセックスが
嫌だなんて
思わないよな？」

「セックス……♡♡♡
セックス好き♡♡♡」

「可愛いくり恵の為に
これからもたくまん
セックスしてやるからな？」

「嬉しい……♡♡♡
嬉しいよお……♡♡♡」

「そうだ
昔のくり恵みちいには
髪を伸ばせよ
その方が可愛いぜ」

「はい……♡♡♡
伸ばします……♡♡♡
アナタ好みの女に……
なります……♡♡♡」

ゴポッ

「よお くり恵 今日も色っぽいなア」

「……………」

「これ…
今月の
お金……………」

「おう 悪いな
いつも助かってるぜ」

「お札に今日の
ラブホ代は
俺が出してやるよ」

「お
お金……………
ギャンブルにばっか
使わないで……………」

「わかってるって！
ちゃんと半分は
貯金してるからよオ」

「ちゃんと栄養ある物
食べて……………」

ズリ
ズリ

くしゃ

「心配してくれんのか？
嬉しいねえ……………!!
じゃあ今度くり恵の
手料理を食べさせてくれよ！」

おしゃん♡

「……………
らん……………」

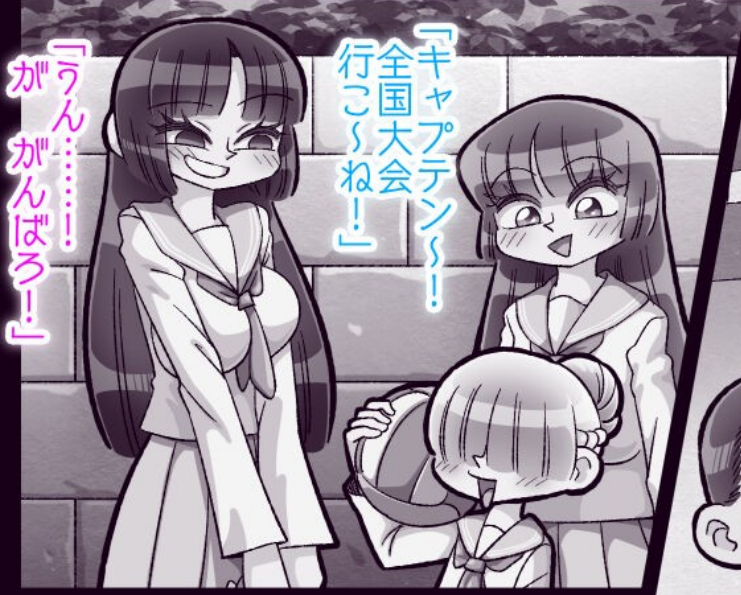
「お料理……
がんばるね……
♡」



オワリ
終

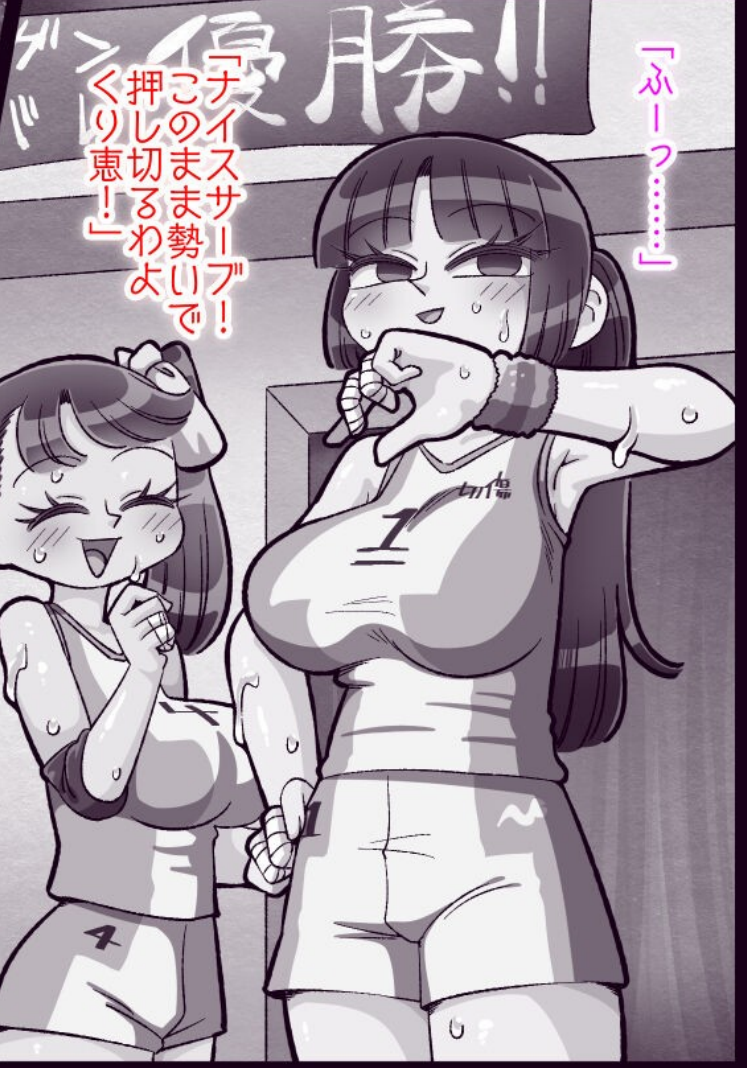
作切傷甲

くり恵から笑顔が消え、
そして戻った理由



「うん………！
がががんばろー！」

「キャアテン〜！
全国大会
行く〜ね！」



「ふーっ………」

「ナイスサーブ！
このまま勢いで
押し切るわよ
くり恵！」



「先輩つて彼氏
居るんですか〜？」

「こら！ 変な事
聞くんじゃないよ！」



「おいコラ！！
生意気に俺を
見下ろすんじゃない
ねえ！！」

「うっ！
うぐうっ！！」

「膜ブチ破りたての
処女マンコに
中出しするぞ！！」

「んぐううううううううううう！！」

ぐわんぐわん
ぐわんぐわん
ぐわんぐわん

ぐわんぐわん
ぐわんぐわん
ぐわんぐわん

「孕め孕め孕めえっ!!
知りねえ男の精子で
受精して人生終われ!!」

「むぐららららららら!!」

「あー
あー
あー」

びゅん
びゅん
びゅん

「あーあー
いやあー」

「くり恵ちゃんねえ……
クリトリスみてえな
エロい名前してらじやねえか」

「よし 今日からお前は
俺の性奴隷だからな!」

「名前も住所も
全部バテてるんだ
逃げようなんて
思わないよ?」

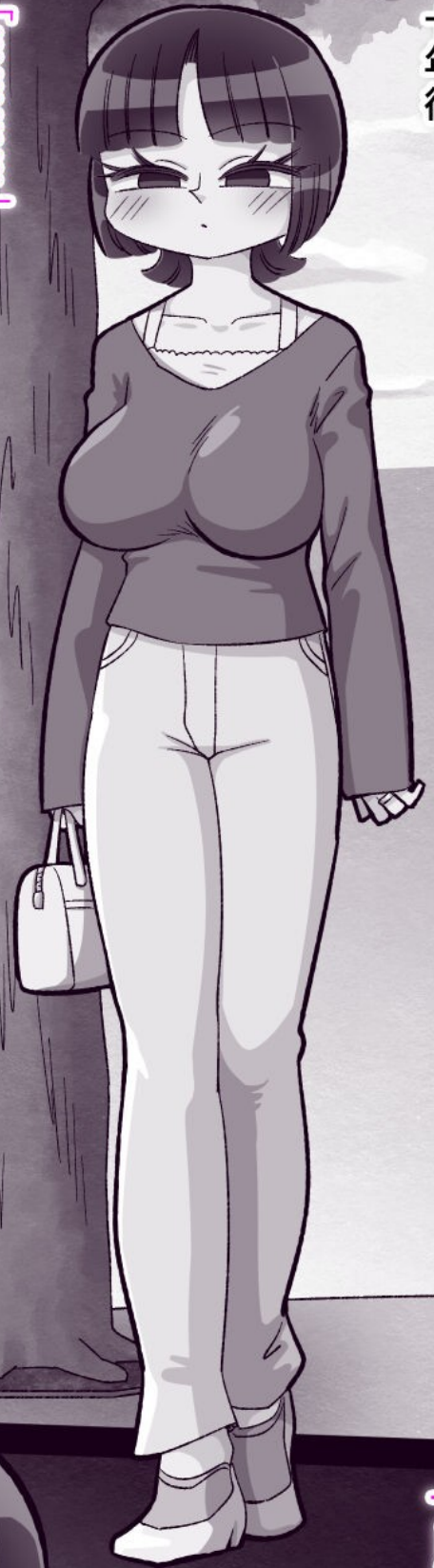


「ちすけて……
だれか……」

「ん」

十年後

「……」

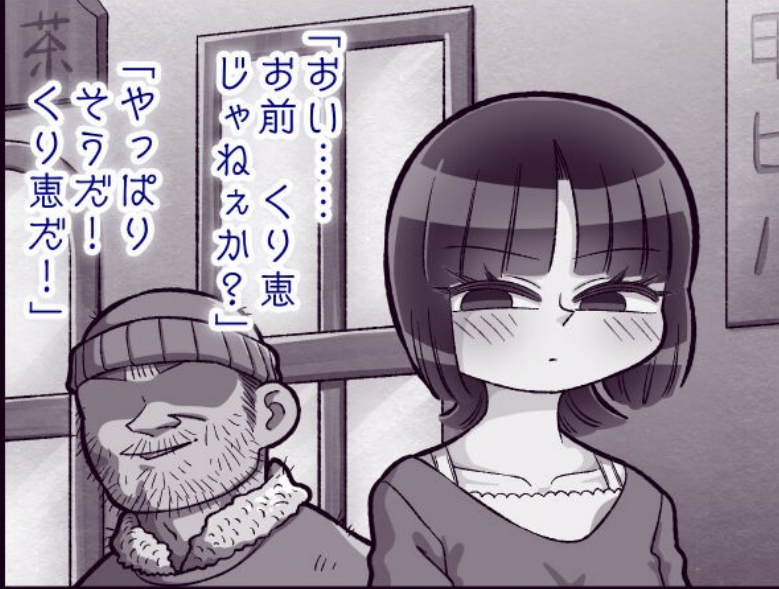


「!!」

「なつかしいなア
俺の性奴隷にする
って言うたのに
直後に引越して
やがってよお」
「ずっとな会いたいよ
思ってたぜえ……」

「……?」

「ほり お前を
レイプした……」



「おい……
お前 くり恵
じゃねえか?」
「やっぱり
そうだ!
くり恵だ!」



「忘れちまつたか?
まあ仕方ねえか
俺もだいたいぶ
落ちぶれた方
からなあ……」



「あの時の
男だよ!」



トスッ

「そうそう
コレだよコレ！」

「このデッケエ
パイオツを
揉み充くて
充まりなかつた
んだよ！」

「……………」

「十年の間に
勝手に人妻に
なりやがって……………」
「夫はあの事を
知ってんのか？」

もみ

もみ もみ

「言っ
てねえ
んだろ？」

「言えるワケ
ねえよなア
処女をこんな奴に
捧げたなんて……………」

もみ

もみ

「バラサれ充くなけりや
判ってるよな……………」

もみ

「旦那の事を
愛してるんだろ？
嫌われ充く
ねえよなア……………」

もみ

「十年経っても相変わらず
良い身体してるじゃねえか」

「ホラ とつとつと
尻を突き出しやがれ
あの日の続きを
するんだよ！」

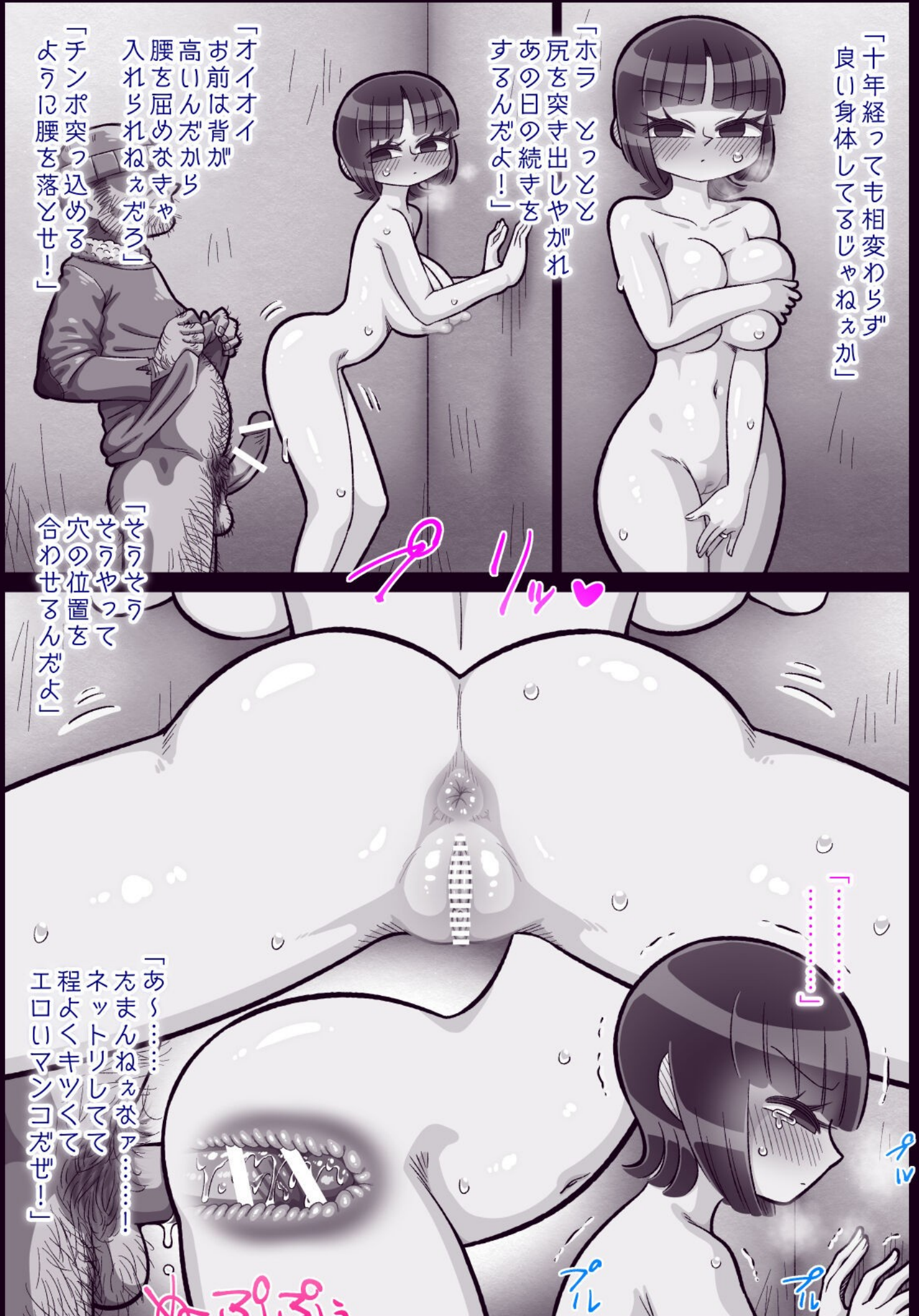
「オイオイ
お前は背が
高いんだから
腰を屈めなま
入れられねえ
だろ」

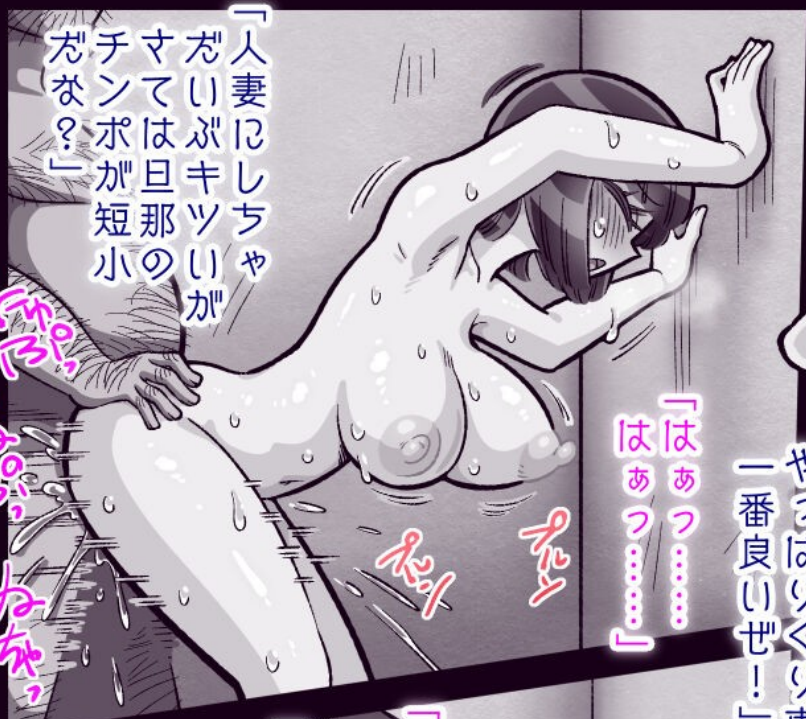
「チンポ突っ込める
ように腰を落とせ！」

「そうそう
そうやって
穴の位置を
合わせるんだよ」

「あゝ……
たまんねえなア……!!
ネットリしてて
程よくキツくて
エロいマンコだぜ！」

あゝあゝあゝ





「人妻にしちゃう
だいがキツいが
マては旦那の
チンポが短小
だな？」

「はあつ……
はあつ……」

んんん、
ぬん、
ぬん、
ぬん、

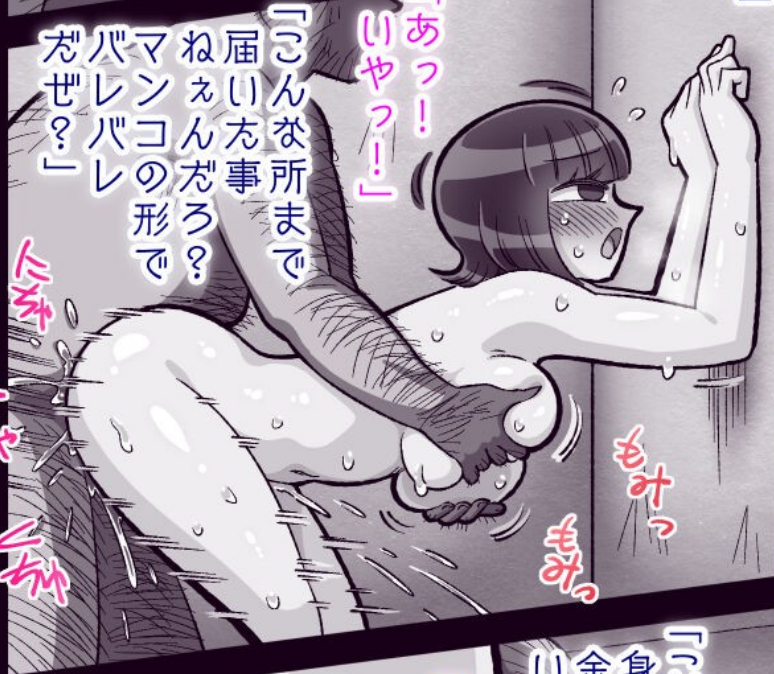


「色んな女を
レイプしたか
やつぱりくり恵が
一番良いぜ！」

「うっ……
うっ……」

ほん、
ほん、
ほん、

ほん、
ほん、

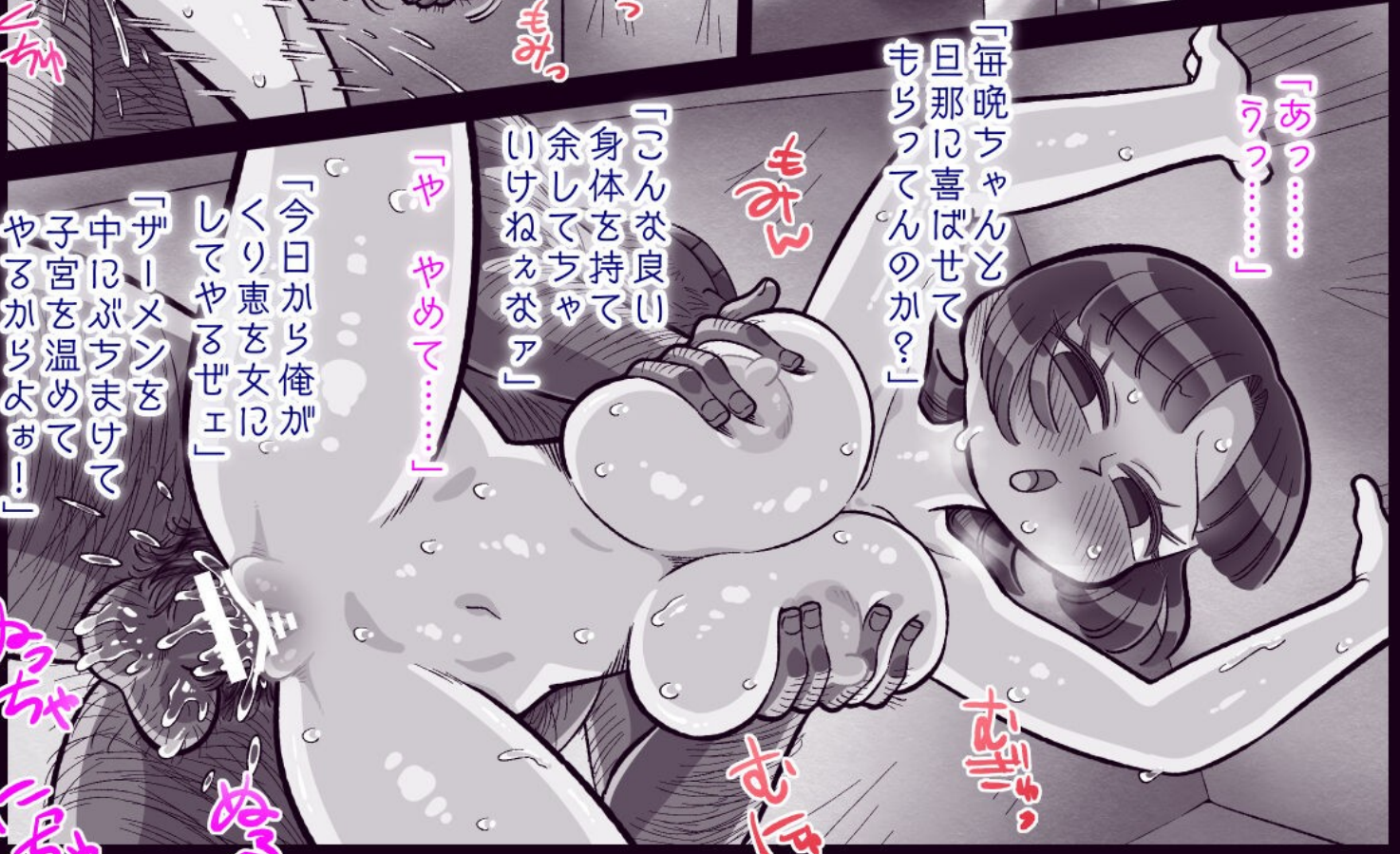


「こんな所まで
届いカ事
ねえんぢろ？
マンコの形で
バレバレ
ぢぜ？」

「あつ！
いやつ！」

んんん、
ぬん、
ぬん、
ぬん、

もみっ
もみっ



「毎晩ちゃんど
旦那に喜ばせて
もらってんのか？」

「あつ……
うっ……」

「こんな良い
身体を持って
余してちゃ
いけねえなア」

「や やめて……」

ぬん、
ぬん、
ぬん、

もみっ
もみっ

もみっ
もみっ

「今日から俺が
くり恵を女に
してやるぜエ」
「サーメンを
中にぶちまけて
子宮を温めて
やるからよお！」

「いやいやっ……!!」
「いやああ……!!」

「くり恵っ!!」
「今度こそ逃さねえ!!」
「性奴隷になりやがれエ!!」

「あうう……」
「うう うう……」

「うおおっ……」
「くり恵っ くり恵えっ!!」

ドクドク
ドクドク
ドクドク
ドクドク

びびる
びびる
びびる
びびる

「どうだ 再会を祝した
濃厚種付けのお味はよオ」

「昔のレイプも
今日の不貞行為も
バラマレたくなけりゃ
……判つてんな？」

「は……は……」
「は……は……」

びびる
びびる
びびる
びびる

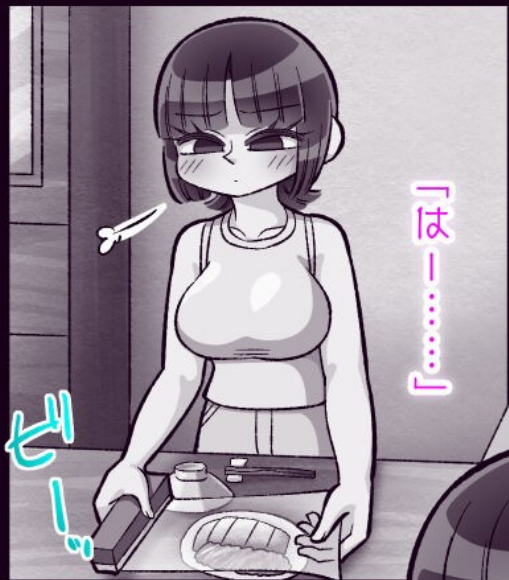
「うう……」
「性奴隷に
なります……」

ドクドク……

びびる
びびる
びびる
びびる



チラ



「は……」



ごめん
今日も帰れない…
料理仕舞っておいて

20:37



20:45 既読



「俺と十年ぶりにセックスしてからどうして方？」

「思い出してワレメこすり回して方んじゃねえか？」



「時間通りだな来てくれてうれしいぜ」

「……」



「おっ パンティが丸見えになっ方瞬間にエロいニオイ漂ってき方ぜ」

「こりゃマンコも出上来がってやがるな？」

ヤ

す



「今夜は俺のマイホームで思う存分楽しませてやるぜ」

「何ぼさつと立ってんだ早く素っ裸になるんだよ」

「……」

「やっぱりトロトロに
なつてやがったなァ」

「うっ あっ
あうっ……」

「ビッシヨリ濡れた
エロマンコが
チンポからザーメン
搾り取る動き
してるぜえ！」

「おらっ 潮吹け！
敏感マンコ痙攣
マセながら
エロ汁吹き出せ！」

「い いやっ……
やだっ やっ……」

ニヤ ニヤ
ぬい
びや

ちゅ ちゅ
ちゅ ちゅ

びん

「あああつ！
だめだめっ
だめえっ！」

「はあ はあ
はあ……」

「へへ 勃起が止まらねえよ
今度は俺が楽しませて
もらう番だな……？」



あーん

アアアア！！

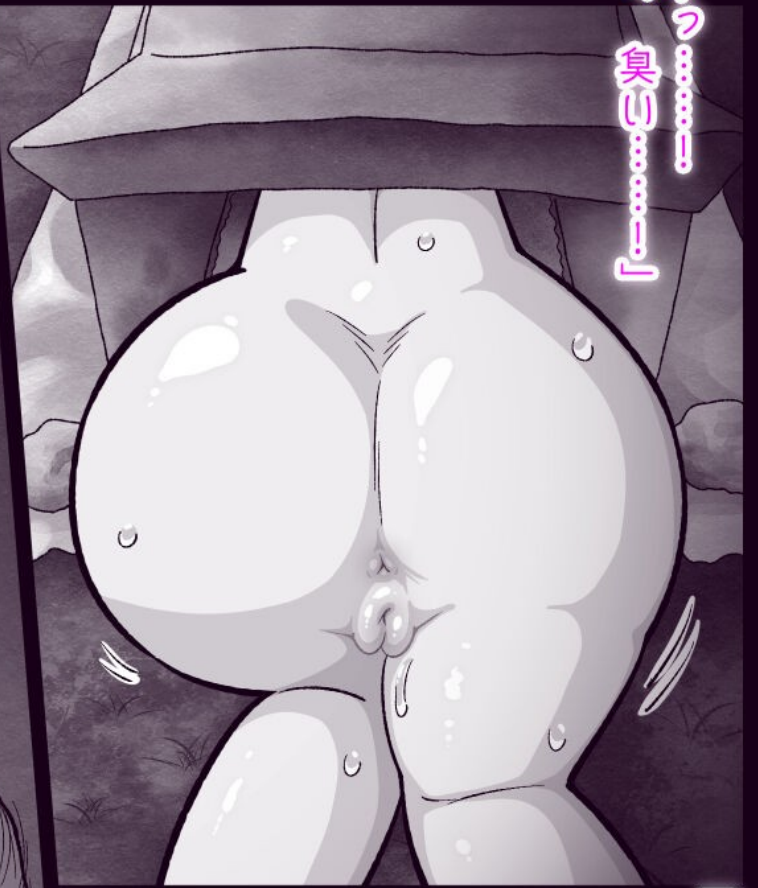
「とつとつ中に
入りやがれ!
案外気に入るかも
しれねえぞろ?」

「うわぁぁぁ」

「ちよつと小せえかど
くり恵だつ足がはみ出る
かもしれねえけつ……
まあ 気に入んな!」



「うわぁぁぁぁぁ
く臭い……」



「んわわわ……
んぱつ わわわ!」



「くり恵つ! くり恵えつ!
お前は俺の女だつ!
一生俺の物なんぞよつ!」

「あうつ
はうう……」

ぬんぬん

「くり恵ちゃあゝん!
俺の愛の巣へ
ようこそオ!」

「や やだつ……
狭い……」



モッ モッ

「入れるぞ
くり恵っ!
生マンコに
挿入ませろ!」

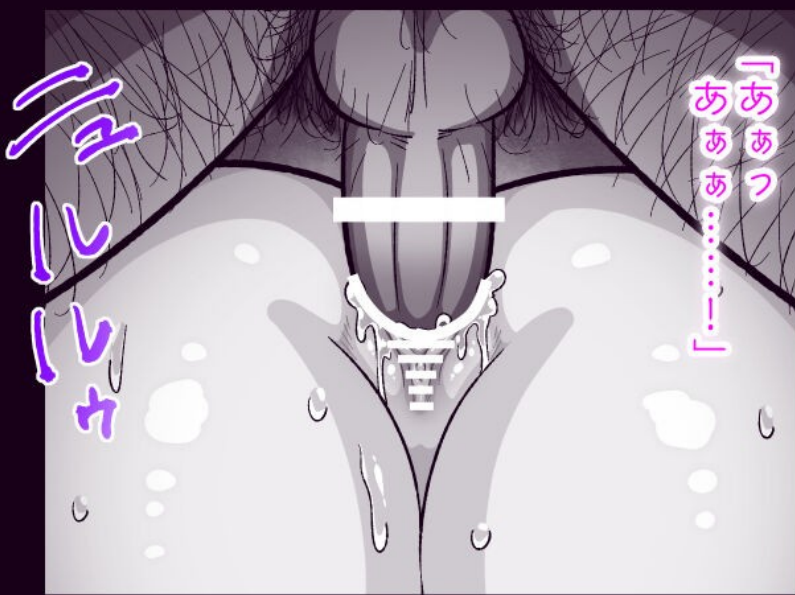


「あっ!
あっ!」

ゼンマイ

ゼンマイ

「ああっ
あああ……!」

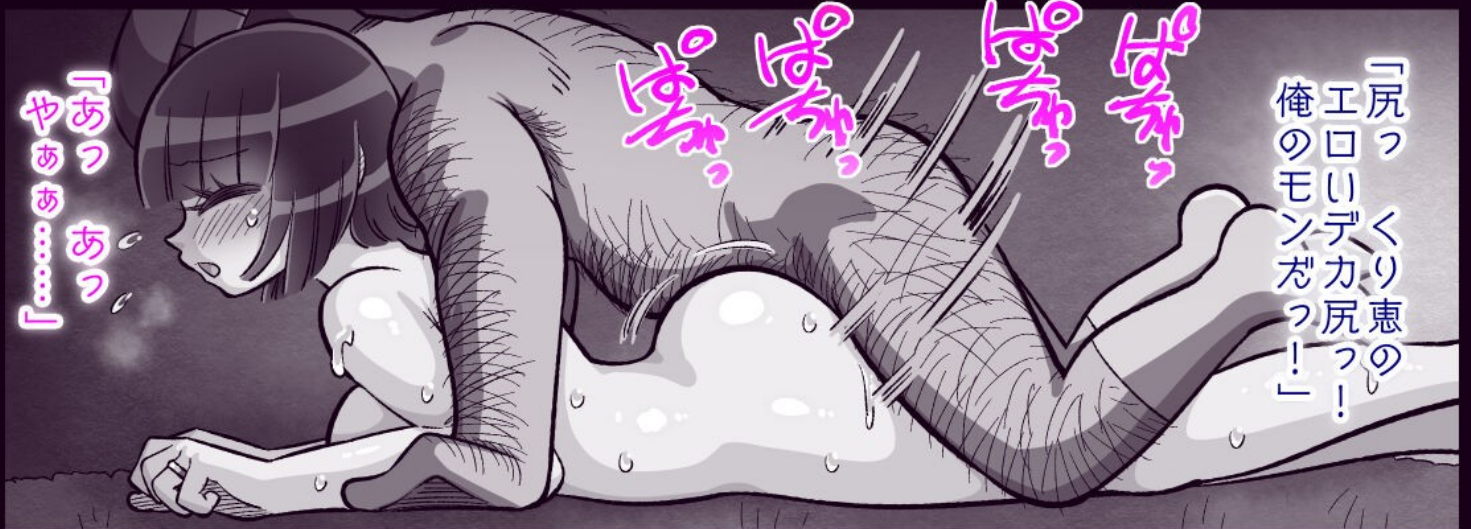


ゼンマイ

「尻っ
エロいデカ尻っ!
俺のモンだっ!」

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

「あっ
あっ
やああ……!」



「くり恵を
レイプした日から
この感触を
忘れろ事は
一度もねえ!」

ぬちぬち
かいた
ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

「んっ
むぶっ
んむううっ!」



「何人レイプしても
この身体を
知つちまつたど
満足できねえっ!」

ぽんぽん
ぽんぽん
ああっ
あっ
あっ

「くり恵っ!
中に出すぞっ!」

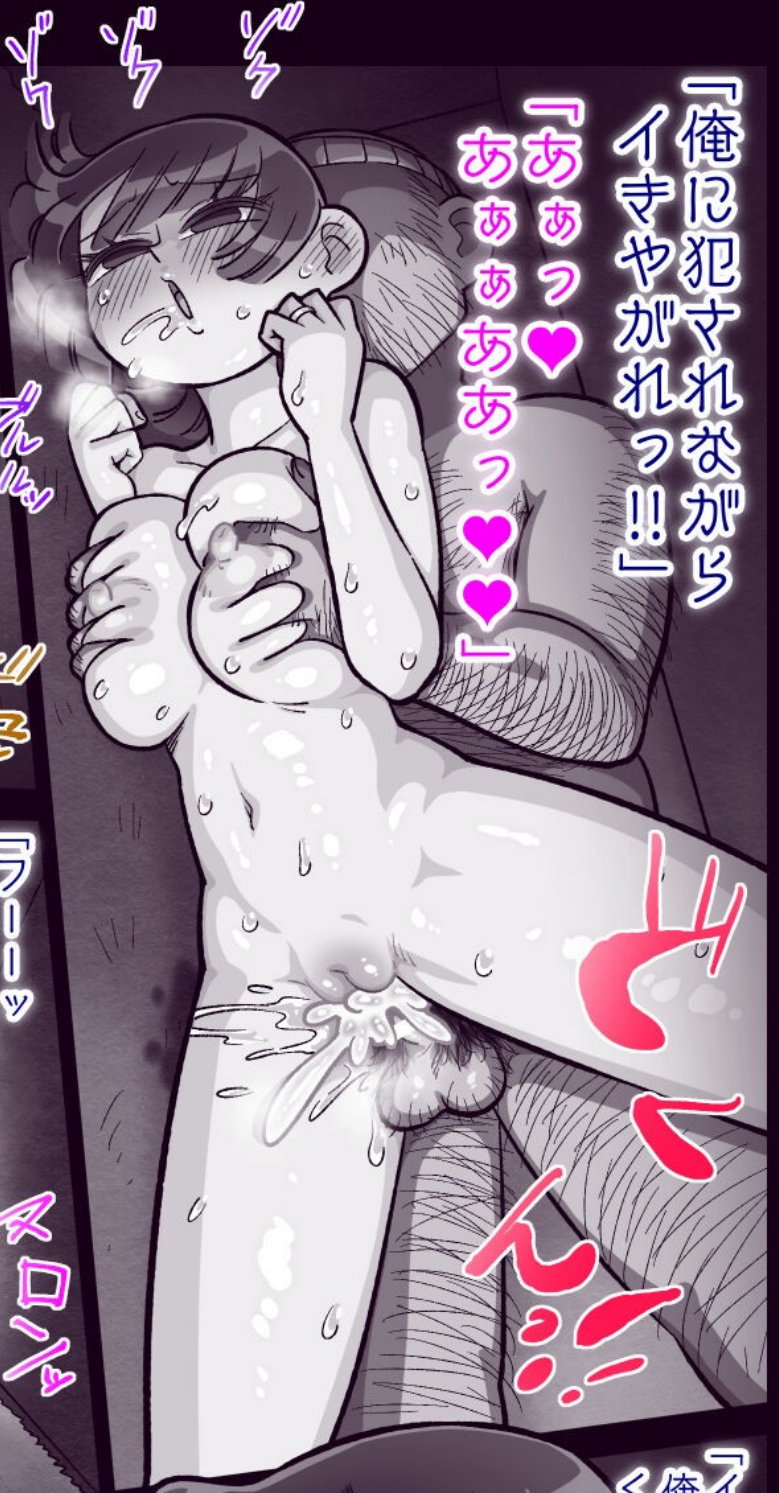
ゼンマイ

ゼンマイ



「俺に犯されながら
イキやがれっ!!」

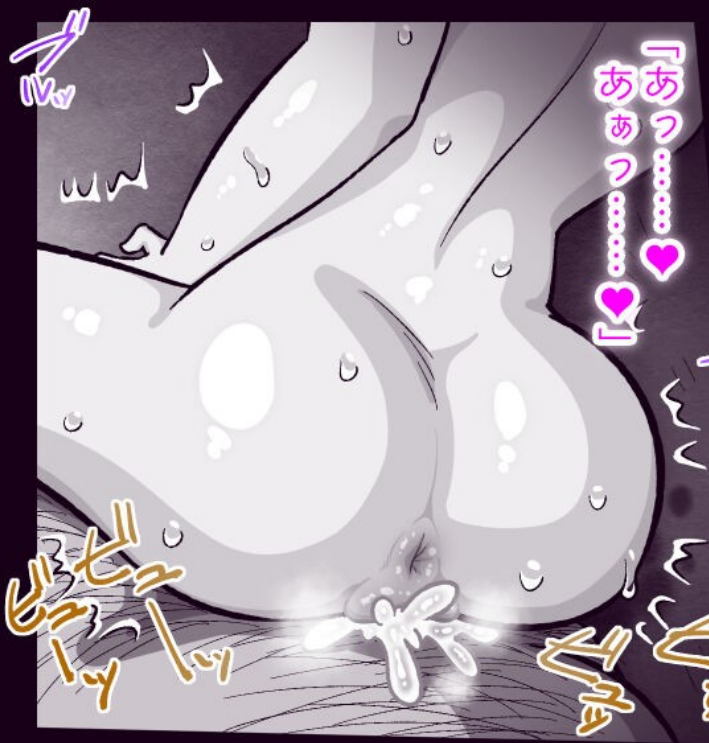
「あぁっ♡
あぁあぁっ♡♡♡」



「あつ……♡
あぁつ……♡」

ズンズン

ズンズン

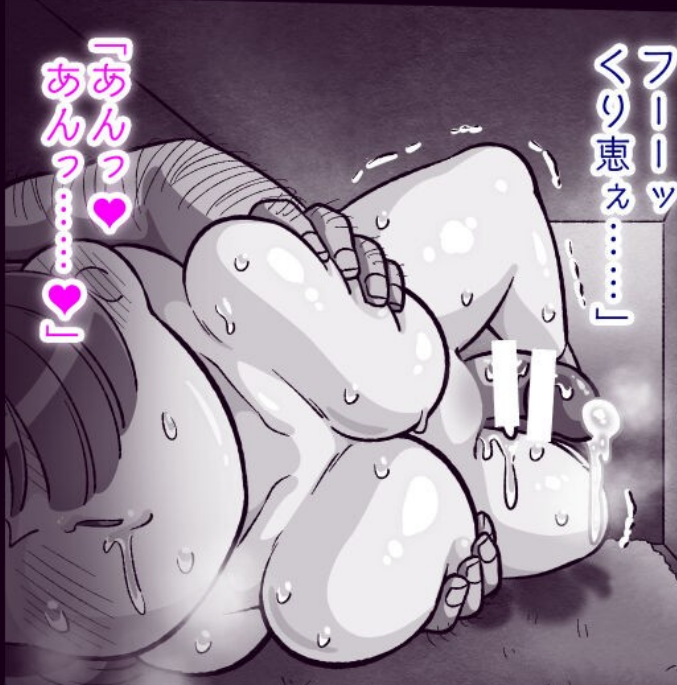


んんん!!

マロン

「フーッ
くり恵え……」

「あんっ♡
あんっ♡」



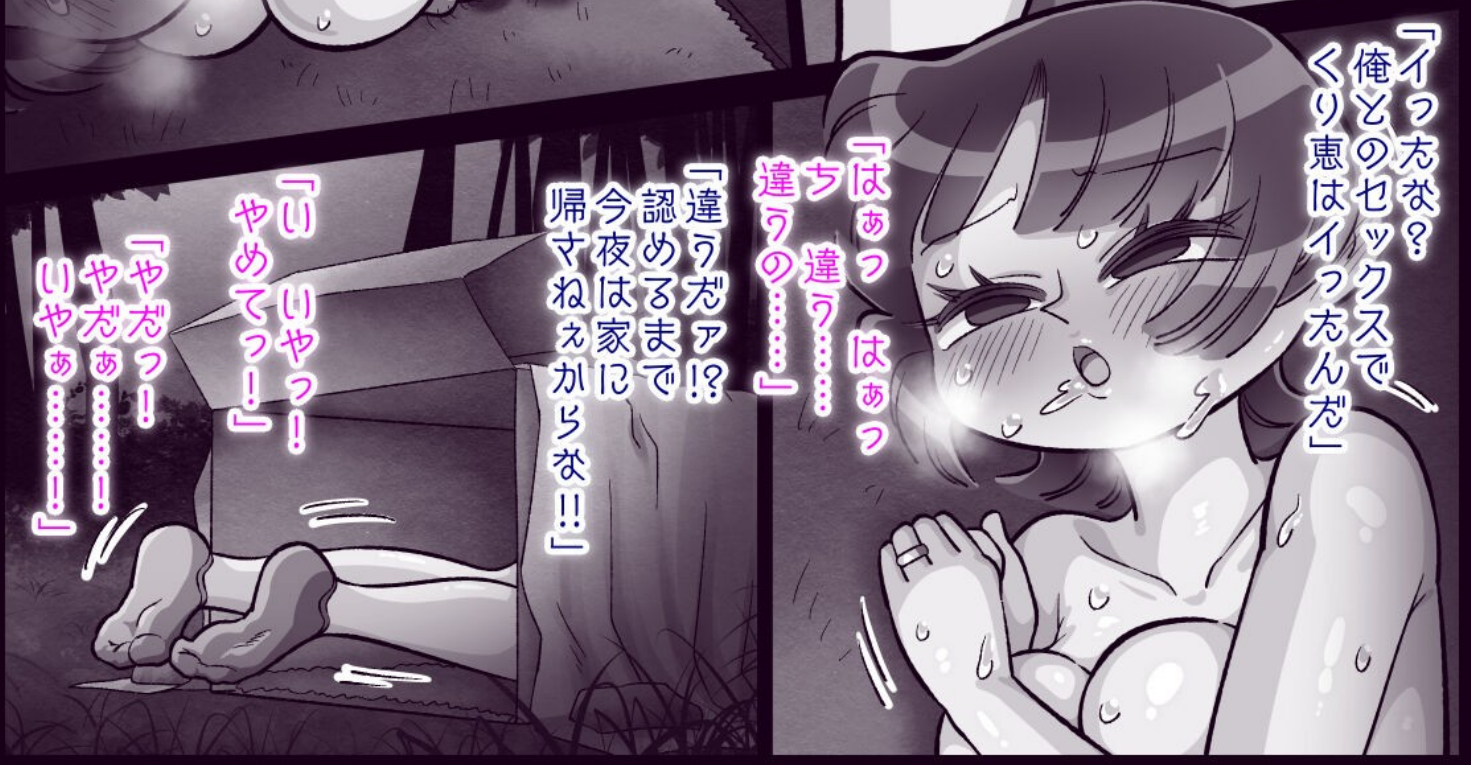
「イッちなな?
俺とのセックスで
くり恵はイッちんだ」

「はぁっ はぁっ
ち 違う……」

「違うだア!?
認めるまで
今夜は家に
帰さねえからな!!」

「いやっ!
やめてっ!」

「やだっ!
やだあ……
いやあ……」



「へえ「ここが
くり恵と旦那さんの
寝室ねえ……」

「綺麗な部屋で
うらやましいぜ」

「ワリいな 押しかけちまって
でも勃起が収まらなくて
我慢が出来なくてよオ」

「お お願い……
いい 家には来ないで……
主人に知られちる……」

「あなたと会ってる所を
誰かに見られちる
困るの……」

「なら旦那が帰って来る前に
早く済ませちまおうぜ」

「うう……」

「あつ……
やつ……」

ふんふん

「俺の事を
旦那だと思って
あのベッドで
楽しんで
くれよなァ！」

あみ

「ううっ……
くうう……」

「どうだ
俺のチンポで
ほじくられて
気持ち良いだろ？」

「はあっ……
はあっ……」

「旦那の粗末な物じゃ
届かない所まで
グイグイ突っ込まれて
感じてるんだろ？」

はあっ
はあっ
はあっ

ぴちゃ
ぴちゃ

ぬちゃっ
にちゃっ

ほん
ほん
ほん

はあ
はあ
はあ

「嘘つけ こんなに
ギユウギユウに
締め付けてるのにか？」

「か
な 感じてなんか
無い……」

ぬる
ぬる

ぬる
ぬる

「あ アナタなんかで
気持ちよくなんか……」

もみっ もみっ

「おいおい 忘れろのか？
処女喪失の日に
お前が忘れだけ
イキまくってろのかをよ！」

「えっ……!？」

「ああんっ♡
あはあんっ♡♡♡

もみっ

「ざっ♡
ざもぞっ♡
ざもぞっ♡♡♡

「れいれいぷっ♡
れいぷぞっ♡♡♡

ズッ
ズッ
ズッ

「えっ!?!
な何コレ!?!」

ズキッ

「どうやら本当に
忘れてるみたいだね！」

「お前はあの日
エロい喘ぎ声を
上げながら
犯されるのを
楽しんでいっただよ！」

「大人しそうな顔をして
本当はセックスに
興味津々な変態女
だったって事マ！」

ムシムシ

「犯してっ♡♡♡
犯してええっ♡♡♡」

「中に出してっ♡♡♡
私を汚してええっ♡♡♡」

ザルルルッ!

「ああわ私……
そうだ……あの時……
私はレイプで喜んで……」

「思い出したか？
レイプをおねだりする
女なんて初めて
だっただぜ」

アリ

33

「モッ……♡
モッ……犯して
く……だ……♡」
「セックス……♡
私……セックス
大好きな
変態なんです♡」

カク

「おっ……♡
おっ……♡
んおっ……♡♡♡」

ムシムシ

「もう自分を騙す
必要なんて
ねえからな！」

「セックス好きとして
産まれ方事は
何も悪い事じゃ
ねえんだからよ!!」

「は 恥ずかしく無い??
セックス好きなの?
悪いことじゃ 無い??!」

「ザモザツ
ザモザツ
ザモザツ
ちんぽこっ♡♡♡
ちんぽこっ♡」

ほん、ほん、ほん

ふるわ!

ちんぽこっ!

「ちんぽこっ♡♡♡
さん方まつ♡♡♡
おとこつ♡♡♡
すきいっ♡♡♡」

ほん、ほん、ほん

ほん、ほん、ほん

ちんぽこっ

「悪い事なんか
ねえんだよ!!
気持ちよく
なりてえんだろ!」

「なりなり方いっ♡♡♡
気持ちよくっ♡♡♡
なり方いっ♡♡♡」

ちんぽこっ、ちんぽこっ

どぼ、どぼ、

どぼあか!

「いやらしい
くり恵の「トッ
♡♡♡」

どぼあか

どぼあか♡

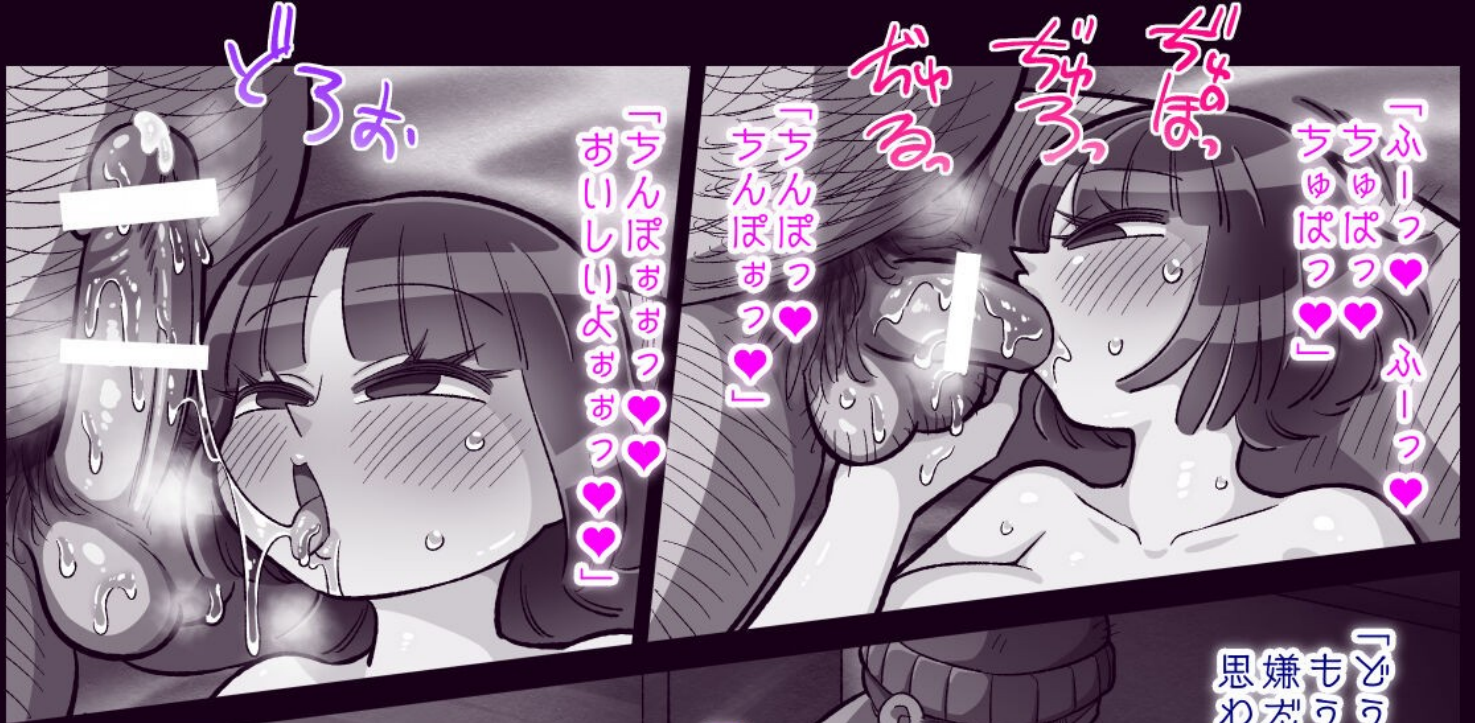
どぼあか♡

「いっぱい気持ちよく
してえええっ
♡♡♡」

どぼあか

どぼあか





どろみ

「ちんぽおっ♡♡♡
おいしいよおっ♡♡♡」

「ちんぽっ♡♡
ちんぽおっ♡♡」

ぢゅぽ
ぢゅぽ
ぢゅぽ

「ふーっ♡♡♡
ちゅぱっ♡♡♡
ちゅぱっ♡♡♡
ふーっ♡♡♡」



「どうだっちんぽくり恵
もう俺とのセックスが
嫌だなんて
思わないよな？」

「セックス……♡♡
セックス好き♡♡」

「可愛いくり恵の為に
これからもたくまん
セックスしてやるからな？」

「嬉しい……♡♡
嬉しいよお……♡♡」

「そうだ
昔のくり恵みちいには
髪を伸ばせよ
その方が可愛いぜ」

「はい……♡♡
伸ばします……♡♡
アナタ好みの女に……
なります……♡♡♡」

ゴポッ

「よお くり恵 今日も色っぽいなア」

「……………」

「これ…
今月の
お金……………」

「おう 悪いな
いつも助かってるぜ」

「お札に今日の
ラブホ代は
俺が出してやるよ」

「お
お金……………
ギャンブルにばっか
使わないで……………」

「わかってるって！
ちゃんと半分は
貯金してるからよオ」

「ちゃんと栄養ある物
食べて……………」

ズリ
ズリ

くしゃ

「心配してくれんのか？
嬉しいねえ……………!!
じゃあ今度くり恵の
手料理を食べさせてくれよ！」

おしゃん♡

「……………
らん……………」

「お
お料理……
がんばる
ね……
♡」



オワリ
終